
美馬市 R E S A S 活用地域經濟調查分析
— 広域編 —

報 告 書

平成 29 年 3 月

美馬市 地方創生推進課

目次

第1章 広域地域経済調査分析の概要	1
1. 広域地域経済調査分析の目的.....	1
2. 県西部地域及び隣接市の地域特性.....	1
3. 調査分析概要とフロー.....	2
第2章 美馬市の近隣市町を取り巻く現状	3
1. 人口の動向.....	3
(1) 人口推移.....	3
(2) 自然増減・社会増減.....	4
(3) 転出入.....	5
2. 就業者の状況.....	6
(1) 産業3分類別就業者の状況.....	6
(2) 通勤における人の動き.....	7
3. 分析対象圏域.....	8
(1) 美馬市近隣広域圏.....	8
(2) 美馬市・つるぎ町広域圏.....	8
第3章 広域における経済分析	9
1. 美馬市近隣広域圏における経済分析.....	9
(1) 雇用吸収産業について.....	9
(2) 域外市場産業について.....	11
(3) 所得創出産業について.....	13
(4) 美馬市近隣広域圏における分析まとめ.....	16
2. 美馬市・つるぎ町広域圏における経済分析.....	17
(1) 雇用吸収産業について.....	17
(2) 域外市場産業について.....	19
(3) 所得創出産業について.....	21
(4) 美馬市・つるぎ町広域圏における分析まとめ.....	24

第4章	その他主要産業の特性分析	25
1.	農業の状況	25
(1)	農産物販売の状況	25
(2)	農業者の状況	26
(3)	農地の状況	27
2.	林業の状況	28
(1)	林業収入の状況	28
(2)	素材生産量の状況	29
(3)	林業法人化の状況	29
3.	観光の状況	30
(1)	観光目的の状況	30
(2)	滞在者の状況	31
第5章	広域経済分析のまとめと課題	32
第6章	広域連携施策の検討	34

第1章 広域地域経済調査分析の概要

1. 広域地域経済調査分析の目的

住民生活の広域化が進む中、生活圏、経済圏に対応した産業施策の推進が必要となっています。このため、国が平成27年4月より提供を開始している地域経済分析システム（以下、RESAS<リーサス>という）を活用し、本市を中心とした広域地域における経済分析を体系的に行うとともに、RESASには掲載されていないデータも踏まえ、詳細な分析を行うことにより、広域地域経済の実態を定量的・定性的に明らかにし、今後の有効な政策立案に資するため、本報告書を取りまとめました。

なお、RESASに係る機能、データは随時更新されており、本報告書においては、2016年12月末時点のデータを主に活用して分析しています。

2. 県西部地域及び隣接市の地域特性

本市に隣接する三好市、つるぎ町、東みよし町は、本市を含め県西部地域に位置付けられ、剣山や吉野川をはじめとする豊かな自然や、秘境祖谷、うだつの町並みなどの個性的な観光資源、半田そうめんや祖谷そばなど伝統的特産品といった優れた地域資源に加え、四国3県に接し高速道路や鉄道により四国の交通ネットワークの中心に位置する地域特性を有しています。

また、本市の東部に位置する吉野川市は、吉野川中流域に位置し、高越山をはじめとする山々、国の天然記念物に指定されているホタルやオンツツジ群落など豊かな自然環境を有しています。また、四国霊場の藤井寺や、阿波修験道発祥の地とされる高越寺など、歴史文化財も数多く残されています。交通面では、JR徳島線が東西に走り、徳島空港や高松空港、徳島自動車道の脇町IC・土成ICが約30km圏内にあります。

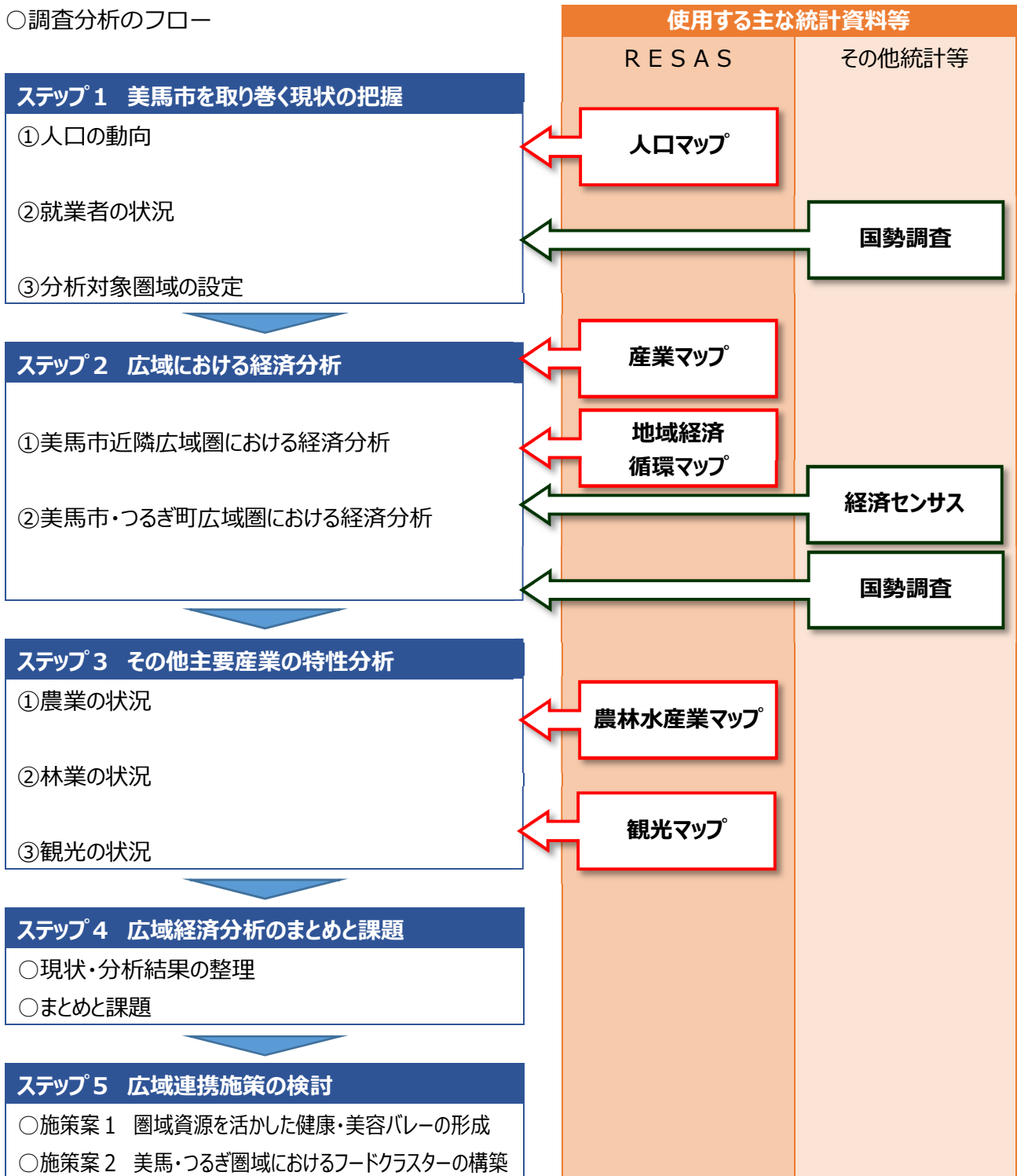
本市の東部、吉野川市の北側に隣接する阿波市は、国の天然記念物「阿波の土柱」をはじめ、美しく珍しい自然、風景に恵まれているほか、四国霊場の4つの札所をはじめとする名所旧跡が点在しています。交通面では、徳島自動車道が東西に走り、土成インターチェンジや阿波パーキングエリアが整備されています。

3. 調査分析概要とフロー

本調査分析では、RESASに掲載される各種のデータとその他の統計データを組み合わせることで、本市の近隣市町における地域経済分析を行いました。

分析の手順は、以下のフロー図に示したステップ1からステップ5の流れに沿って実施しました。

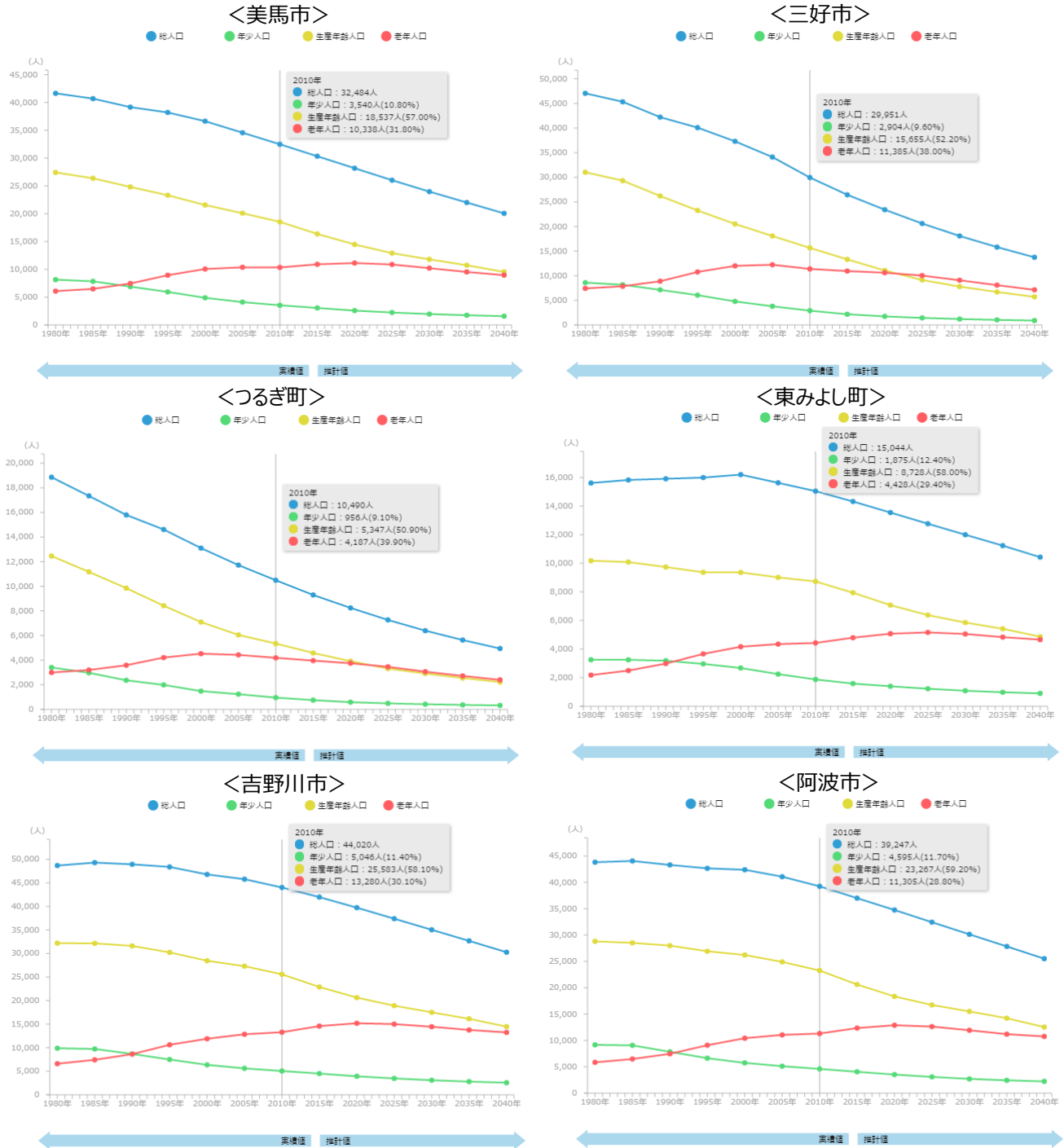
○調査分析のフロー



第2章 美馬市の近隣市町を取り巻く現状

1. 人口の動向

(1) 人口推移 ～人口構造の把握～

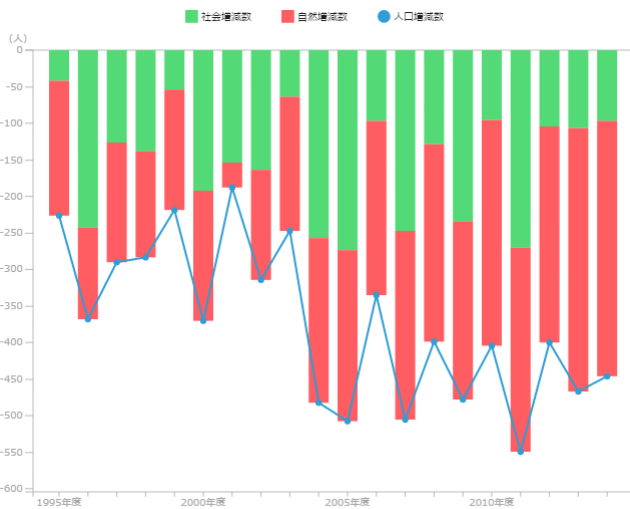


出典：RESAS（総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」）

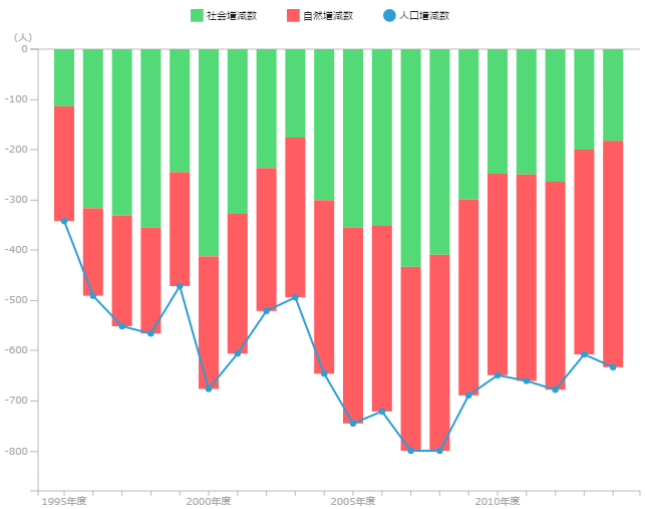
人口推移をみると、いずれの市町も人口減少傾向にあるとともに、高齢化が進展しています。老年人口は、現状では多くの市町で増加が続いていますが、三好市、つるぎ町では既に減少傾向となっており、他の市町でも近い将来ピークを迎えることが予測されています。総人口の推計値をみると、特に三好市、つるぎ町において、減少カーブが急になっています。

(2) 自然増減・社会増減 ～人口動態の把握～

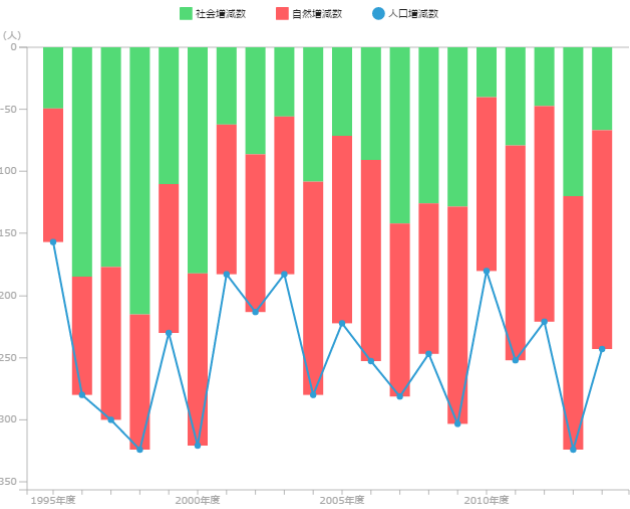
＜美馬市＞



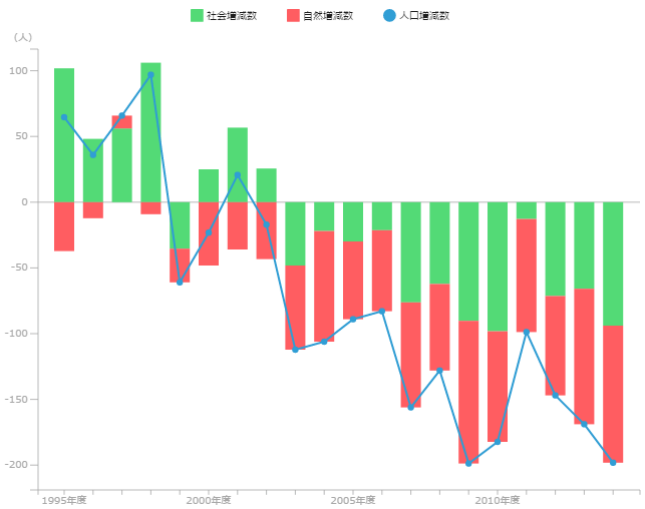
＜三好市＞



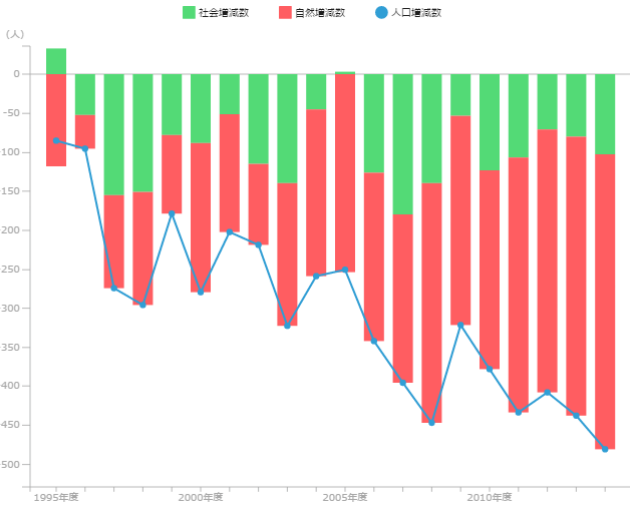
＜つるぎ町＞



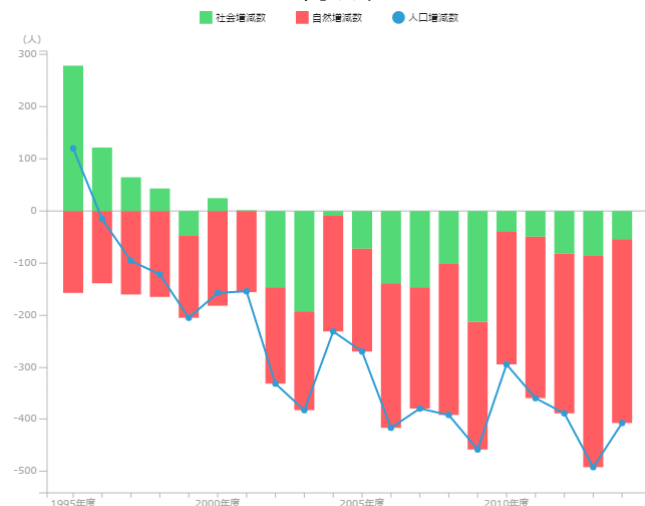
＜東みよし町＞



＜吉野川市＞



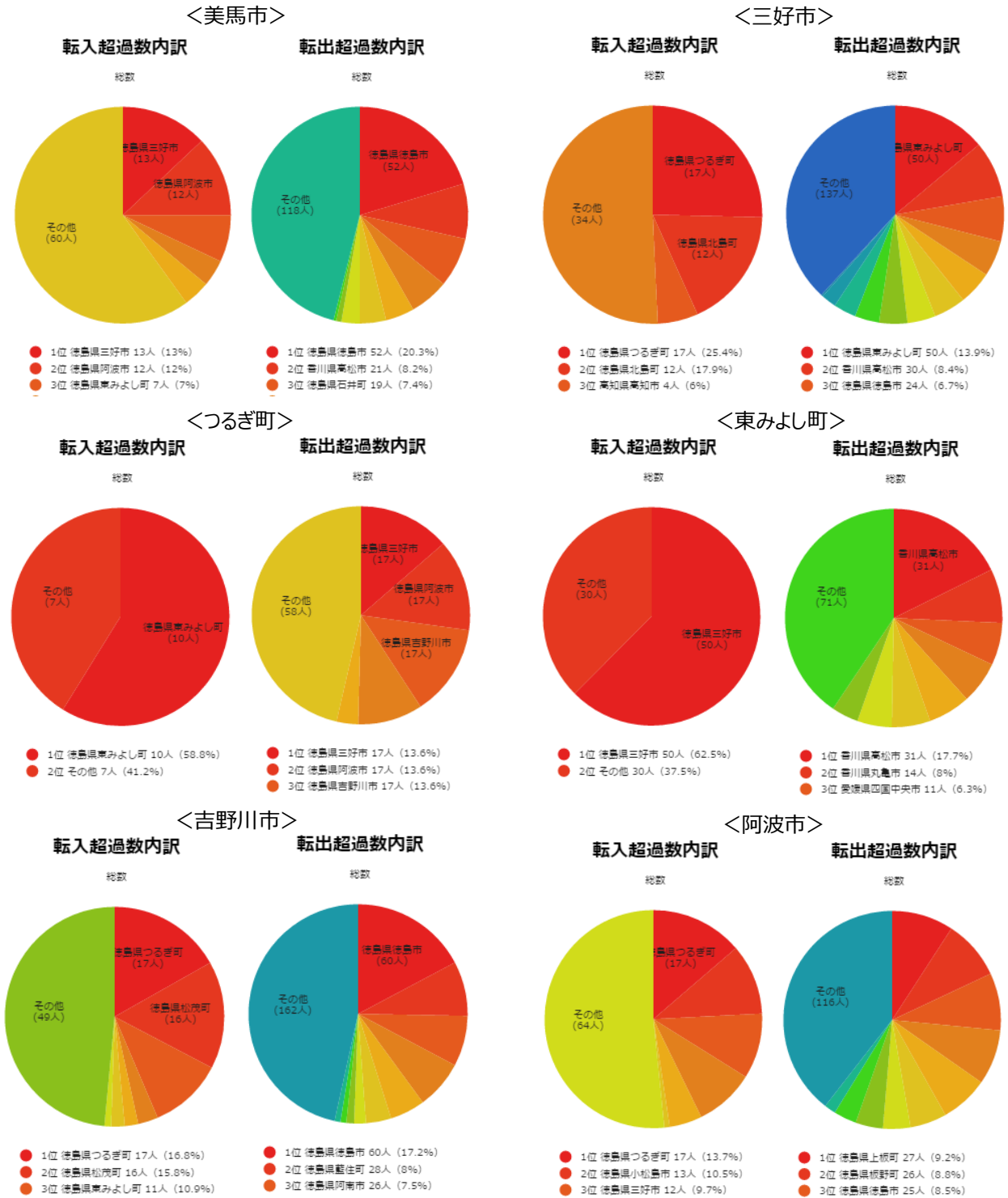
＜阿波市＞



出典：RE S A S（総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数に関する調査」）

自然増減・社会増減の推移をみると、東みよし町、吉野川市、阿波市において、1990年代に社会増がみられたものの、近年ではいずれの市町も自然減・社会減となっており、特に自然減の影響が大きくなっています。

(3) 転出入 (2015年) ～社会動態の動向把握～



出典：RESAS（総務省「住民基本台帳人口移動報告」）

2015年における転出入超過数内訳をみると、転出では、美馬市、吉野川市、阿波市において、徳島市あるいは県東部地域の市町への転出超過数が多くなっています。一方、三好市、つるぎ町においては隣接市町、東みよし町では高松市をはじめ、香川県方面への転出が多くなっています。

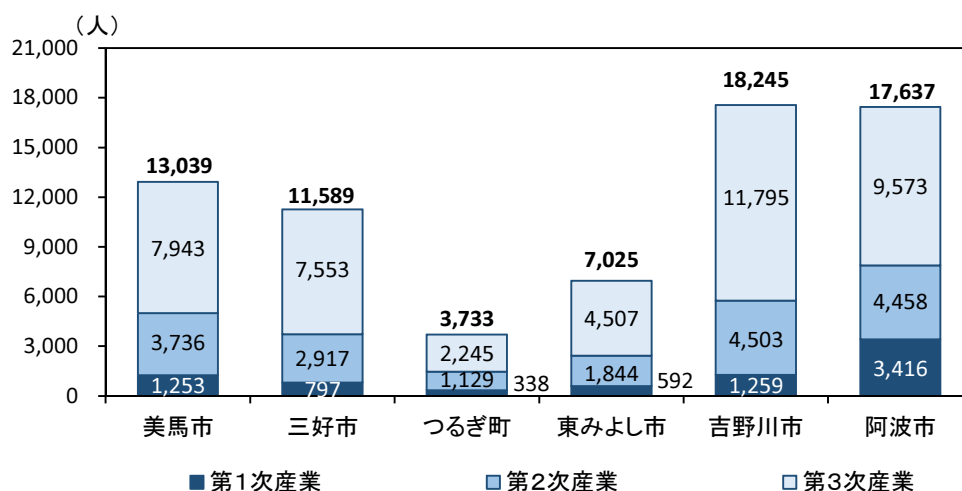
転入では、三好市、吉野川市、阿波市において、つるぎ町からの転入超過数が最も多くなっています。美馬市、つるぎ町、東みよし町では、隣接する市町からの転入が多くなっています。

概ね、三好市、つるぎ町、東みよし町では、隣接市町での移動が比較的多く、美馬市、吉野川市、阿波市では、徳島市をはじめとする東部への移動が多くなっています。

2. 就業者の状況

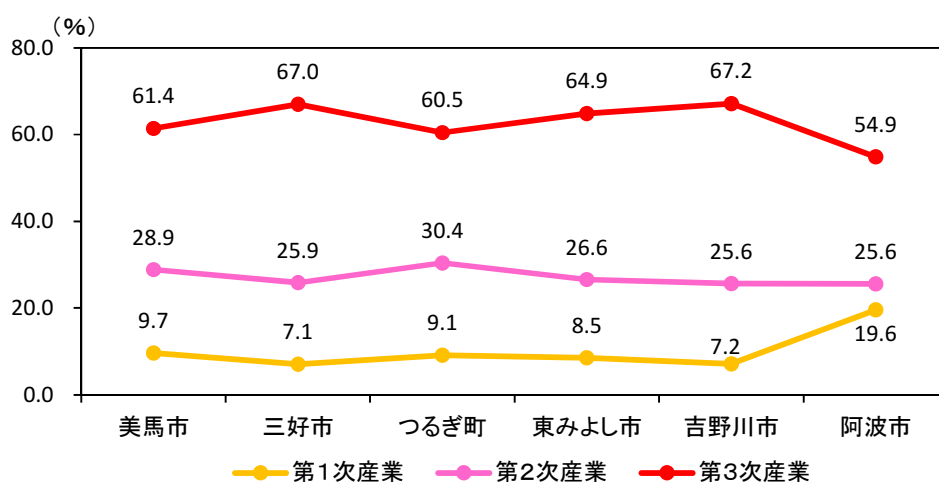
(1) 産業3分類別就業者の状況 ～就業構造の把握～

■産業3分類別就業者数（2015年）



出典：総務省「国勢調査」（2015年）

■産業3分類別就業者割合（2015年）



出典：総務省「国勢調査」（2015年）

各市町別に就業者数をみると、総数では、吉野川市が 18,245 人と最も多く、次いで阿波市が 17,637 人、美馬市が 13,039 人となっています。

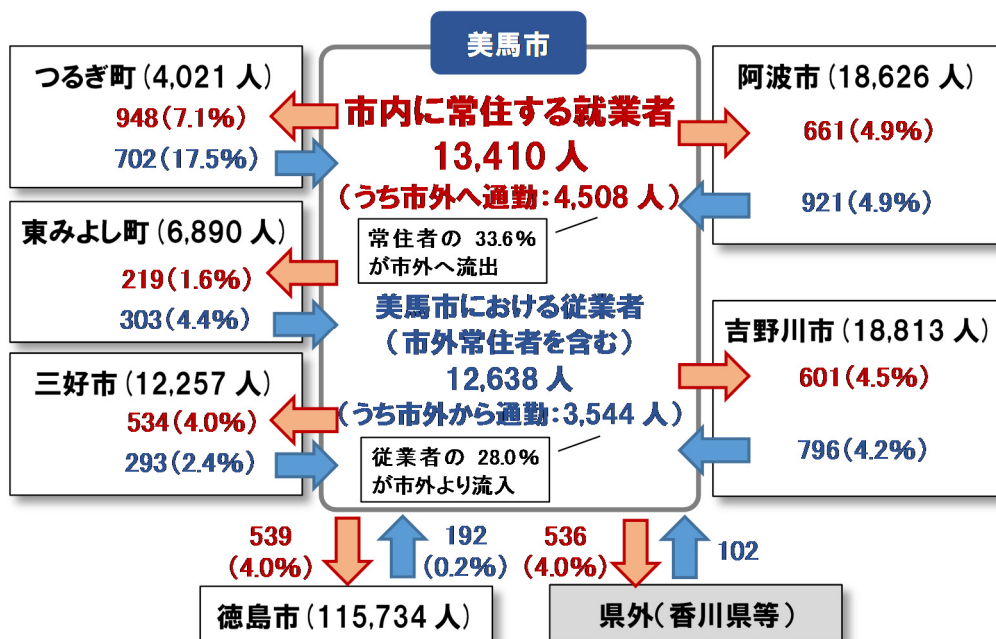
産業3区分別にみると、いずれの市町も第3次産業が最も多く、次いで第2次産業、第1次産業の順となっています。阿波市は、就業者総数では吉野川市よりも少ないものの、第1次産業については吉野川市を大きく上回っています。

就業者割合をみると、概ね第3次産業が6割前後と最も高く、次いで第2次産業が3割から3割弱、第1次産業が1割台から1割弱となっています。

市町別では、阿波市の第1次産業が 19.6%と群を抜いており、第3次産業が 54.9%と他の市町に比べて低くなっています。

(2) 通勤における人の動き ～通勤による流出入の状況を分析～

■美馬市の通勤における移動の状況（2010年）



出典：総務省「国勢調査」(2010年)

※近隣市町横の()内人数は、当該市町に常住する就業者の人数。

赤字は、美馬市から近隣市町へ従業する人数及び美馬市に常住する就業者に対する割合。

青字は、近隣市町から美馬市へ従業する人数及び当該市町に常住する就業者に対する割合。

■広域における就業動向

市町名	就業者人口	昼夜間就業者 比率	通勤流出最大 市町	最大流出人数	通勤流出率
美馬市	13,410	0.942	つるぎ町	948	7.1%
三好市	12,257	1.048	東みよし町	835	6.8%
つるぎ町	4,021	1.036	美馬市	702	17.5%
東みよし町	6,890	0.791	三好市	1,728	25.1%
吉野川市	18,813	0.849	徳島市	3,120	16.6%
阿波市	18,626	0.833	徳島市	1,873	10.1%

出典：総務省「国勢調査」(2010年)を加工

美馬市内から市外への通勤は、つるぎ町への流出が948人、就業者数の7.1%と最も多くなっています。また、つるぎ町からは702人、つるぎ町就業者数の17.5%の流入があり、通勤圏として密接に関わっていることが分かります。

その他、美馬市からの流出は、阿波市が661人(4.9%)、吉野川市が601人(4.5%)、徳島市が539人(4.0%)、三好市が534人(4.0%)となっています。流入については、阿波市からが921人(4.9%)、吉野川市からが796人(4.2%)、東みよし町からが303人(4.4%)、三好市が293人(2.4%)となっており、これら県西部地域及び吉野川市、阿波市との一定の就業における結びつきが伺えます。

また、広域における就業動向をみると、広域間で中心性を有する市町は見受けられないものの、美馬市及びつるぎ町と、三好市及び東みよし町は、それぞれ2市町間で互いに通勤流出人数が最大となっており、連携関係が伺えます。また、吉野川市、阿波市の通勤流出最大市町は徳島市であり、徳島地域の就業圏域に含まれることが分かります。

3. 分析対象圏域

第2章1. 人口の動向、2. 就業者の状況をふまえ、美馬市広域圏における分析対象地域を設定します。

(1) 美馬市近隣広域圏

対象市町 : 美馬市、三好市、つるぎ町、東みよし町、吉野川市、阿波市

広域圏人口 : 159,570 人 (2015 年国勢調査)

就業者人口 : 71,268 人 (2015 年国勢調査)

第1次産業 : 7,655 人 (11.0%)

第2次産業 : 18,587 人 (26.6%)

第3次産業 : 43,616 人 (62.4%)

(2) 美馬市・つるぎ町広域圏

対象市町 : 美馬市、つるぎ町

広域圏人口 : 39,482 人 (2015 年国勢調査)

就業者人口 : 16,772 人 (2015 年国勢調査)

第1次産業 : 1,591 人 (9.6%)

第2次産業 : 4,865 人 (29.2%)

第3次産業 : 10,188 人 (61.2%)

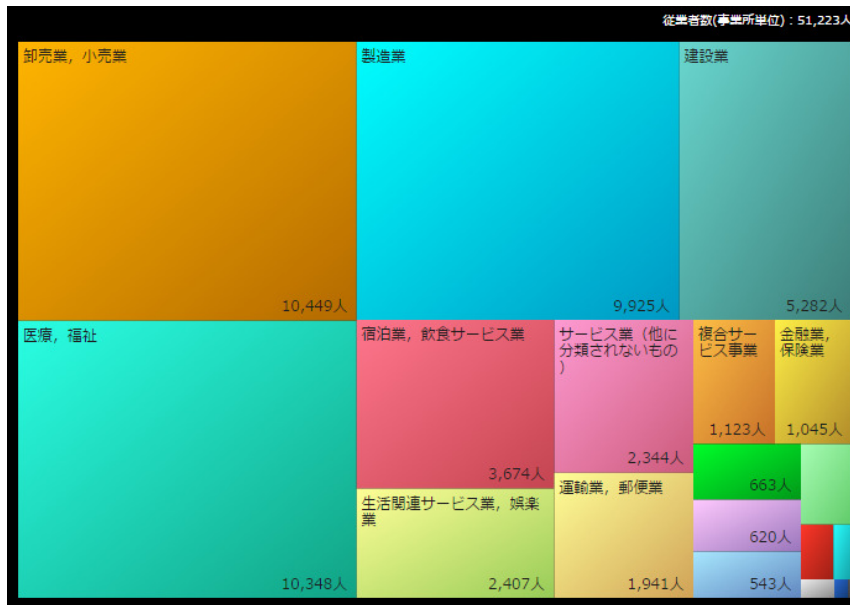
第3章 広域における経済分析

1. 美馬市近隣広域圏における経済分析

(1) 雇用吸収産業について ～圏域で雇用を支える産業は何か～

①産業大分類別従業者数の状況

■美馬市近隣広域圏における産業大分類別従業者数（事業所単位）（2014年）

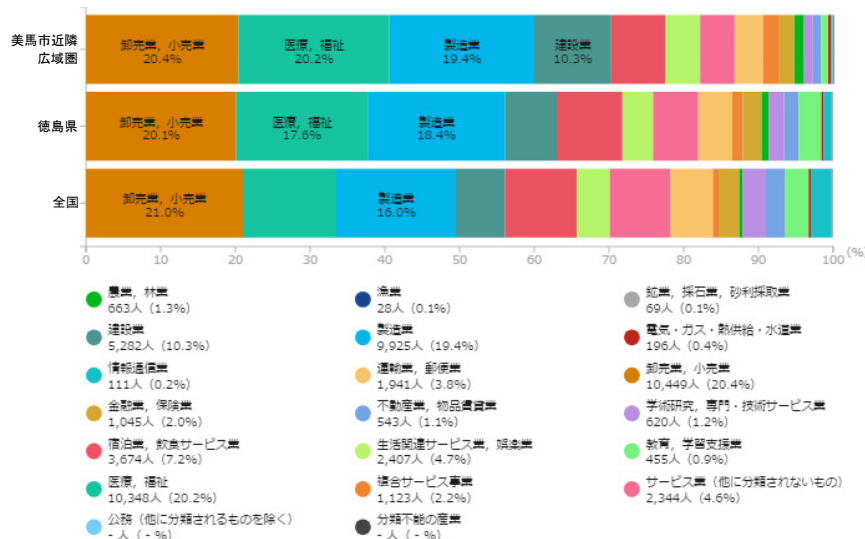


出典：RE S A S（総務省「経済センサス-基礎調査」再編加工、総務省・経済産業省「経済センサス-活動調査」再編加工）

産業大分類別の従業者数をみると、卸売業、小売業が10,449人と最も多く、次いで医療、福祉が10,348人、製造業が9,925人となっています。

上位の産業は、美馬市単独でみた場合と同様の順位となっています。

■産業大分類別従業者割合（事業所単位）の比較（2014年）



出典：RE S A S（総務省「経済センサス-基礎調査」再編加工、総務省・経済産業省「経済センサス-活動調査」再編加工）

産業大分類別に従業者の割合をみると、卸売業、小売業が20.4%と最も高く、次いで医療、福祉が20.2%、製造業が19.4%、建設業が10.3%となっています。これら4分類で従業者数の約7割を占めており、本圏域の雇用吸収産業となっています。

この中でも、医療、福祉、建設業については、徳島県、全国と比較して高い構成割合となっています。

②産業中分類別従業者数の状況

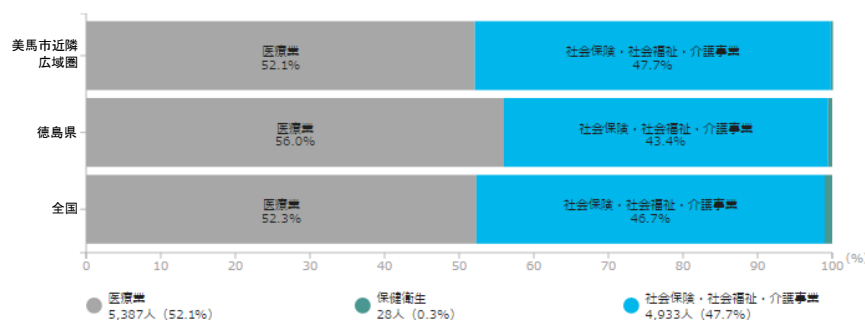
■美馬市近隣広域圏における産業中分類別従業者数（事業所単位）（2014年）



出典：RESAS（総務省「経済センサス-基礎調査」再編加工、総務省・経済産業省「経済センサス-活動調査」再編加工）

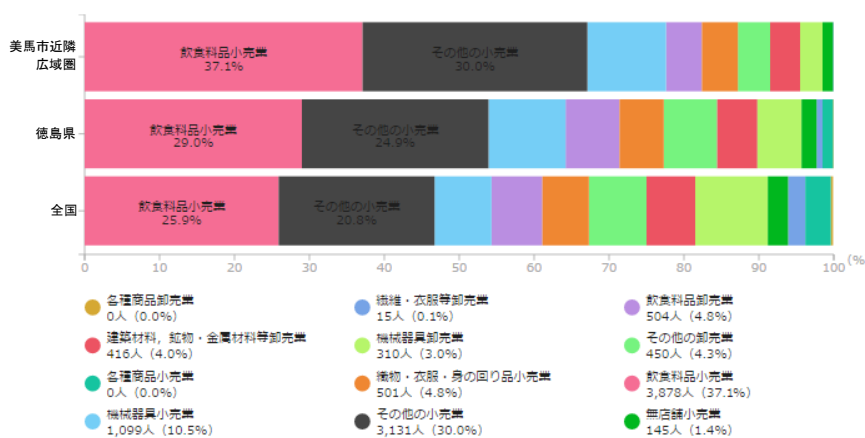
産業中分類別の従業者数をみると、医療業が5,387人と最も多く、次いで社会保険・社会福祉・介護事業が4,933人、飲食料品小売業が3,878人、総合工事業が3,554人、その他の小売業が3,131人となっています。

■産業中分類別従業者割合（事業所単位）の比較（2014年）「医療、福祉」



産業中分類別従業者割合の医療、福祉における内訳をみると、医療業は、徳島県よりもやや低く、全国とほぼ同様の割合となっています。

■産業中分類別従業者割合（事業所単位）の比較（2014年）「卸売業、小売業」



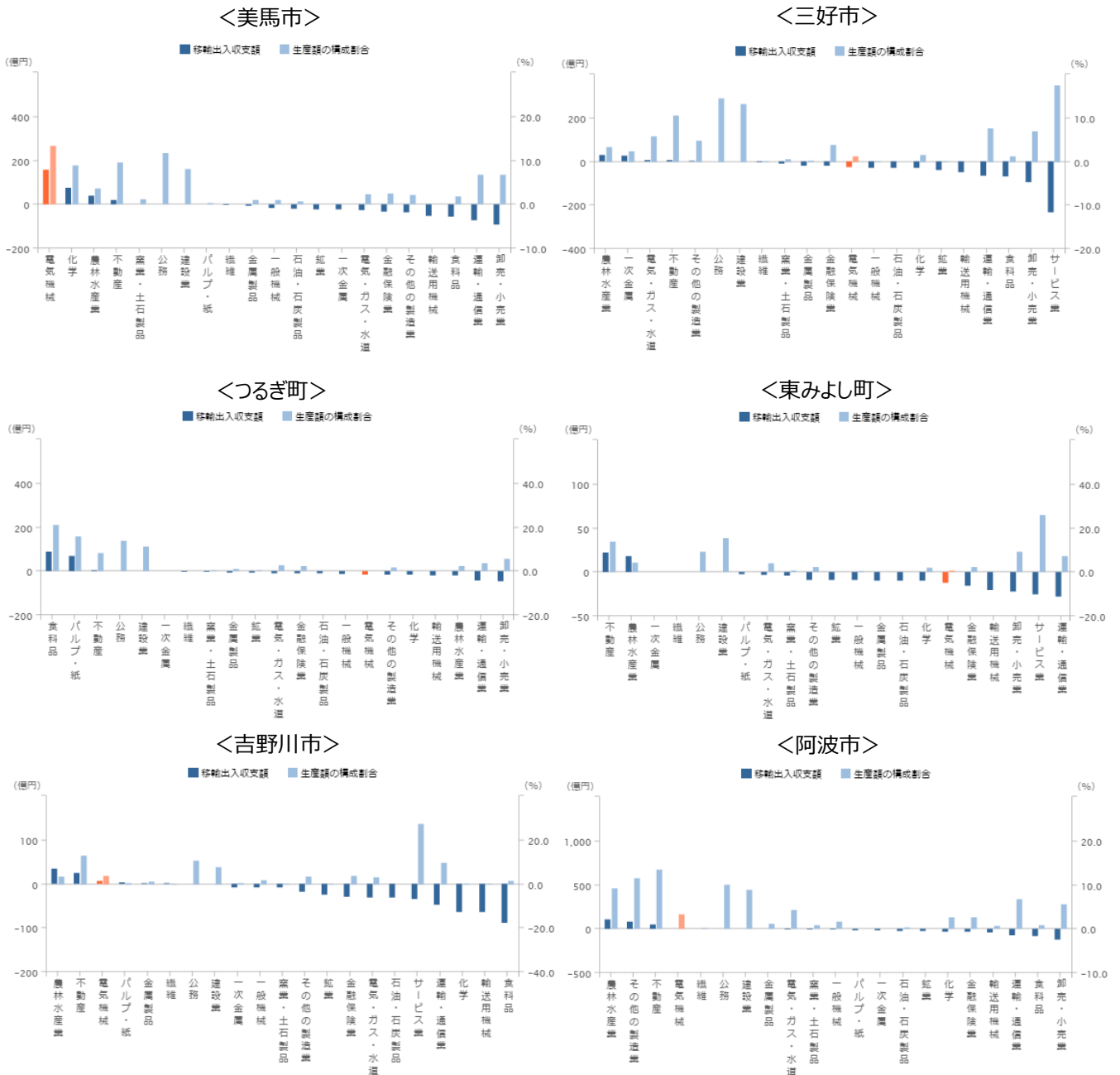
産業中分類別従業者割合の卸売業、小売業における内訳をみると、飲食料品小売業、その他の小売業は、徳島県、全国を上回る割合となっています。

出典：RESAS（総務省「経済センサス-基礎調査」再編加工、総務省・経済産業省「経済センサス-活動調査」再編加工）

(2) 域外市場産業について ～各市町において域外から資金を得ている産業は何か～

① 移輸出入収支の状況

■ 移輸出入収支の状況・地域別産業別（2010年）



出典：RE S A S（環境省「地域産業連関表」、「地域経済計算」(株式会社価値総合研究所（日本政策投資銀行グループ）受託作成）

地域別産業別に、移輸出入収支[※]の状況をみると、収支がプラスとなっている産業は、美馬市では電気機械、化学、つるぎ町では食料品、パルプ・紙が多くなっています。その他の市町では、不動産[※]を除くと農林水産業が最も多くなっており、圏域全体での基盤産業としての位置付けが想定されます。

[※] 移輸出入収支とは、市内で生産された商品が市外へ販売されることが移輸出であり、国内への移入と国外への輸出からなります。市外で生産された商品を市内へ購入してることが移輸入であり、国内からの移入と国外からの輸入からなります。移輸出額と移輸入額の差し引きが移輸出入収支になり、域際収支とも言われます。

[※] 不動産は、移輸出入収支とともに、一定規模の生産額も有していますが、これは、持ち家の所有者が不動産賃貸業を営んでいるとみなした場合の不動産業所得（持ち家の帰属家賃）を計上しているためであり、実際の企業生産額とは異なります。このため、本報告書の分析対象としては、不動産を除いています。

②移輸出収支超過産業の状況

■移輸出入収支超過産業（2010年）

単位：億円

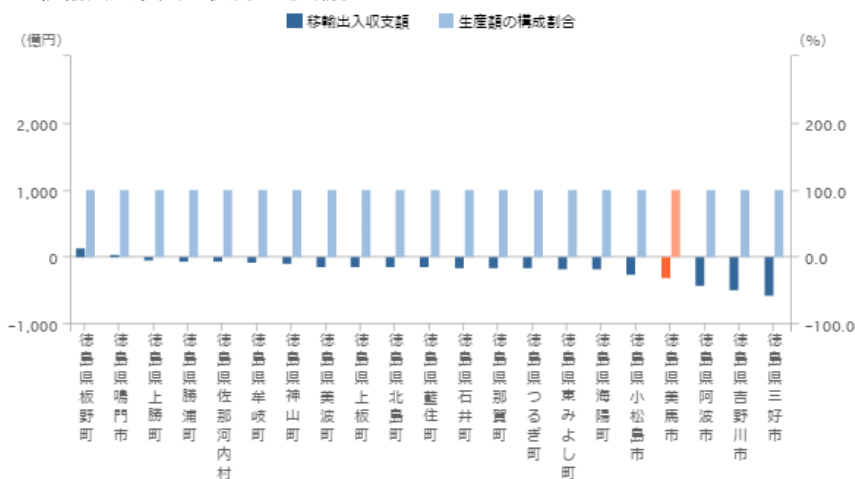
	美馬市	三好市	つるぎ町	東みよし町	吉野川市	阿波市
農林水産業	41	30	-	19	35	108
電気機械	159	-	-	-	7	3
パルプ・紙	-	37	70	-	5	-
その他の製造業	-	4	-	-	-	88
食料品	-	-	90	-	-	-
化学	76	-	-	-	-	-
一次金属	-	29	-	-	-	-
金属製品	-	-	-	-	3	-
繊維	-	-	-	-	2	-
窯業・土石製品	1	-	-	-	-	-
電気・ガス・水道	-	10	-	-	-	-

出典：RESAS（環境省「地域産業連関表」、「地域経済計算」（株式会社価値総合研究所（日本政策投資銀行グループ）受託作成）

圏域における移輸出入収支額超過産業の状況をみると、農林水産業が、つるぎ町を除いて各市町でプラスとなっており、特に阿波市において108億円と群を抜いています。電気機械は、美馬市、吉野川市、阿波市でプラスとなっており、美馬市が特に高くなっています。パルプ・紙については、三好市、つるぎ町、吉野川市でプラスとなっています。

③地域別移輸出収支総額の状況

■移輸出入収支の状況・地域別



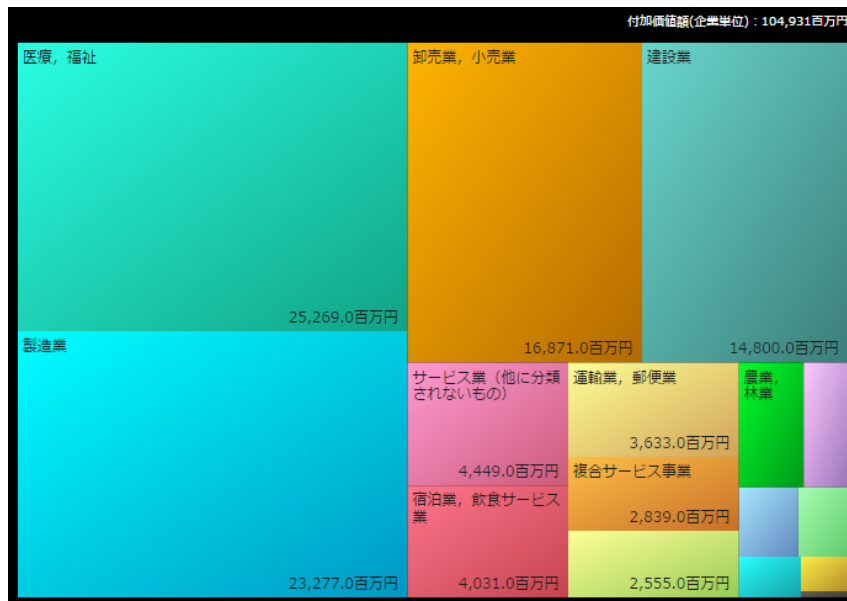
出典：RESAS（環境省「地域産業連関表」、「地域経済計算」（株式会社価値総合研究所（日本政策投資銀行グループ）受託作成）

圏域の地域別に移輸出入収支の総額をみると、6市町ともマイナスとなっており、いずれも県内で下位に位置しています。

(3) 所得創出産業について ～所得を生み出している産業は何か～

①産業大分類別付加価値額の状況

■美馬市近隣広域圏における産業大分類別付加価値額（企業単位）（2012年）

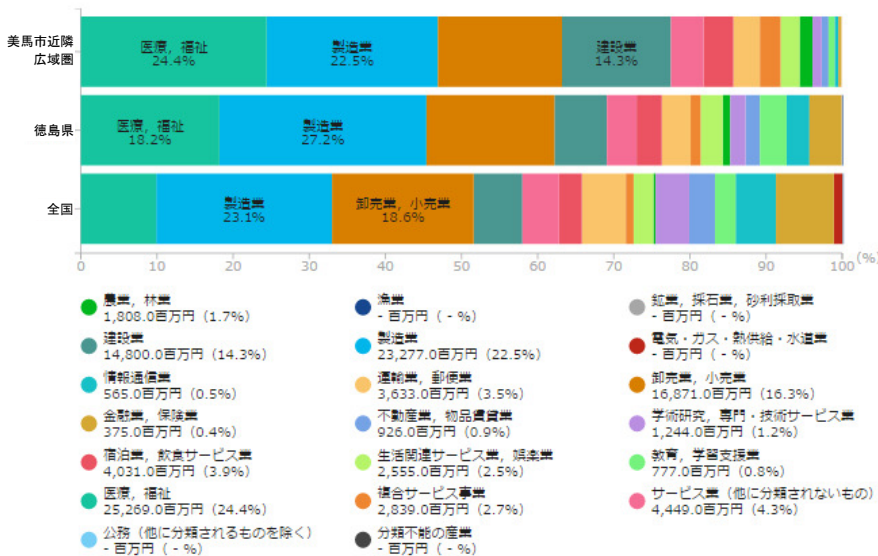


出典：RE S A S（総務省・経済産業省「平成24年経済センサス-活動調査」再編加工）

生産活動によって生み出された付加価値は、所得として従業者、企業に分配されることから、地域の所得水準を分析する上で重要な視点となります。

大分類における付加価値額をみると、医療、福祉が253億円と最も多く、次いで製造業が233億円、卸売業、小売業が169億円、建設業が148億円となっています。

■産業大分類別付加価値額割合（企業単位）の比較（2012年）

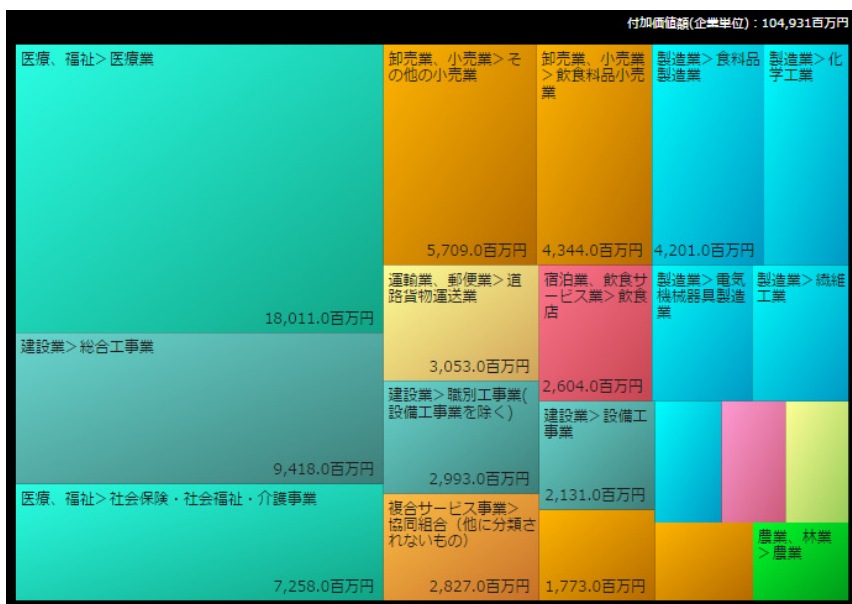


出典：RE S A S（総務省・経済産業省「平成24年経済センサス-活動調査」再編加工）

産業大分類別付加価値額の割合をみると、徳島県、全国と比較して、医療、福祉、建設業の割合が特に高くなっています。

②産業中分類別付加価値額の状況

■美馬市近隣広域圏における産業中分類別付加価値額（企業単位）（2012年）

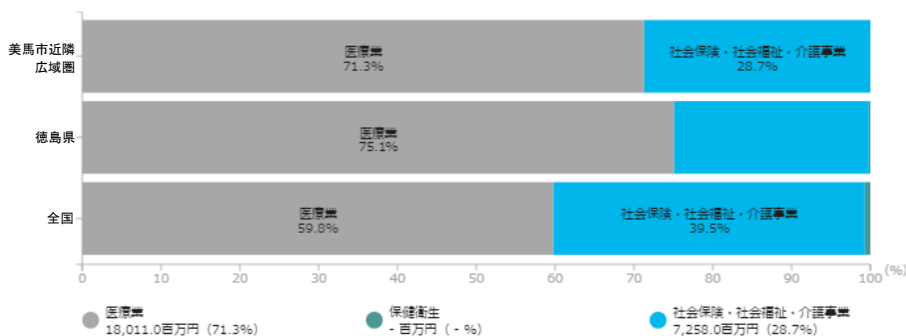


出典：RE S A S（総務省・経済産業省「平成24年経済センサス-活動調査」再編加工）

中分類における付加価値額をみると、医療が180億円と最も多く、次いで総合工事業が94億円、社会保険・社会福祉・介護事業が73億円、その他の小売業が57億円となっています。

上位は、雇用を支える産業の上位と同様となっており、医療、福祉や小売業が広く圏域住民の所得を生み出しています。

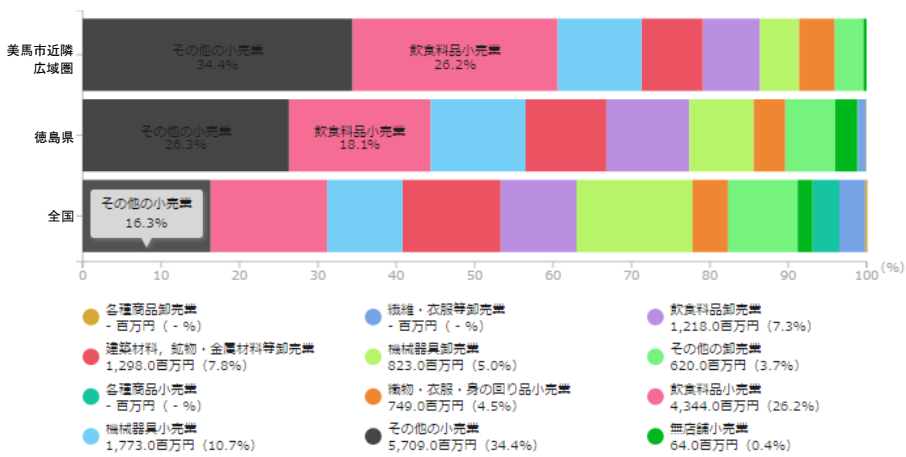
■産業中分類別付加価値額割合（企業単位）の比較（2012年）「医療、福祉」



医療、福祉における付加価値額割合の内訳をみると、医療業が71.3%と、徳島県とともに全国を大きく上回っています。

また、徳島県と比較すると、社会保険・社会福祉・介護事業の割合が高くなっています。

■産業中分類別付加価値額割合（企業単位）の比較（2012年）「卸売業、小売業」

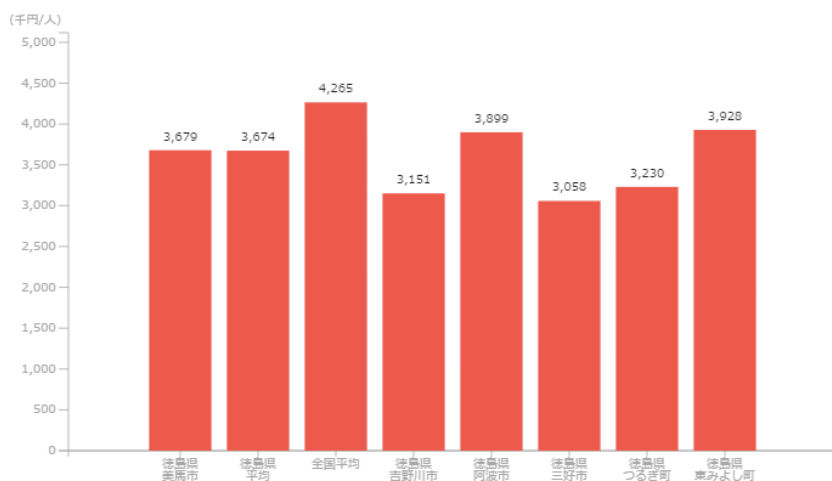


卸売業、小売業における付加価値額割合の内訳をみると、その他の小売業及び飲食料品小売業が徳島県、全国を上回り、住民の日常生活に密着した業種が上位に位置しています。

出典：RE S A S（総務省・経済産業省「平成24年経済センサス-活動調査」再編加工）

③労働生産性の状況

■労働生産性の比較「医療、福祉」（2012年）

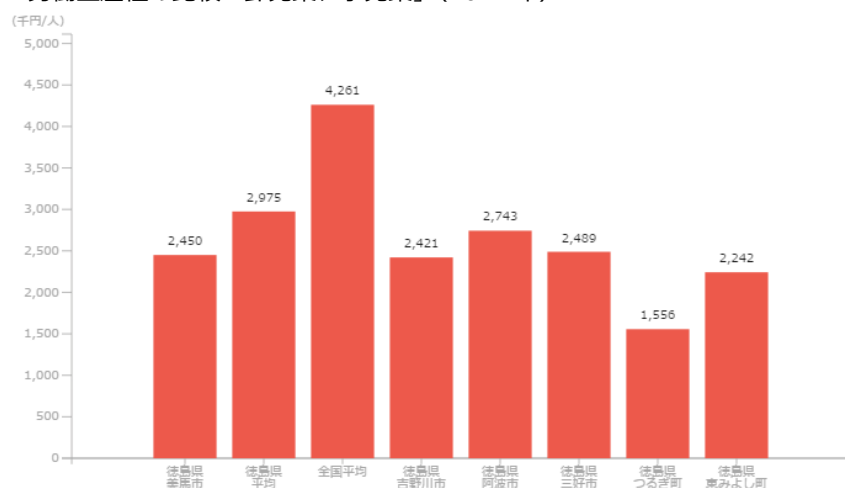


労働生産性とは、付加価値額を従業者数で割ったものであり、一人当たりが生み出す付加価値の大きさを分析することにより、所得拡大に向けた検討を図るものです。

本圏域における医療、福祉の労働生産性は、市町ごとに県と比較した際の多少はあるものの、全体として概ね県平均水準となっています。

全国と比較するといずれの市町も下回っています。

■労働生産性の比較「卸売業、小売業」（2012年）



卸売業、小売業の労働生産性は、いずれの市町も県平均を下回っています。

全国と比較すると、県も含めて低くなっています。

出典：RE S A S（総務省・経済産業省「平成24年経済センサス-活動調査」再編加工）

(4) 美馬市近隣広域圏における分析まとめ

1. 雇用吸収産業について

- 産業大分類別の従業者数をみると、「卸売業・小売業」「医療、福祉」「製造業」「建設業」の順に多く、これら4分類で全従業者の約7割を占め、本圏域の雇用吸収産業となっています。
- 産業中分類別に従業者数をみると、「医療業」「社会保険・社会福祉・介護事業」「飲食料点小売業」「総合工事業」「その他の小売業」の順に多くなっています。

2. 域外市場産業について

- 域外からの収入が域外への支出を上回る、域外資金を獲得している産業は、多くの市町で「農林水産業」があがっており、圏域全体としての基盤産業となっています。その他、「電気機械」「パルプ・紙」「その他の製造業」「化学」の収支超過額が多くなっています。
- 各産業を市町別にみると、「農林水産業」では阿波市、「電気機械」「化学」では美馬市、「食料品」「パルプ・紙」ではつるぎ町、「一次金属」では三好市が、他市町に比べて特に域外資金を稼ぐ産業となっています。製造業については、圏域内で特定の産業に係る企業群が集積するようなクラスター的な状況は伺えず、各市町それぞれにおいて、強みのある産業となっています。

3. 所得創出産業について

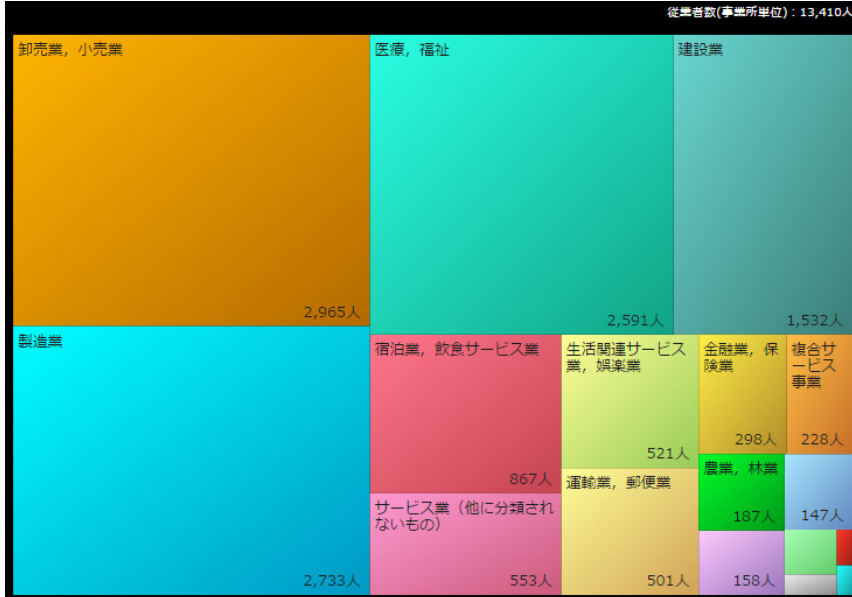
- 付加価値額を大分類別にみると、「医療、福祉」「製造業」「卸売業、小売業」「建設業」の順に多くなっています。
- 中分類別にみると、「医療」「総合工事業」「社会保険・社会福祉・介護事業」「その他の小売業」が上位となっており、雇用吸収産業でもある「医療、福祉」、「卸売業、小売業」関連で所得を生み出しています。
- 医療、福祉及び卸売業、小売業の労働生産性をみると、「医療・福祉」では、圏域全体で概ね県平均の水準となっていますが、全国と比較すると下回っています。「卸売業、小売業」については、いずれの市町も平均を下回り、全国と比較しても低くなっています。

2. 美馬市・つるぎ町広域圏における経済分析

(1) 雇用吸収産業について ～圏域で雇用を支える産業は何か～

① 産業大分類別従業者数の状況

■ 美馬市・つるぎ町広域圏における産業大分類別従業者数（2014年）

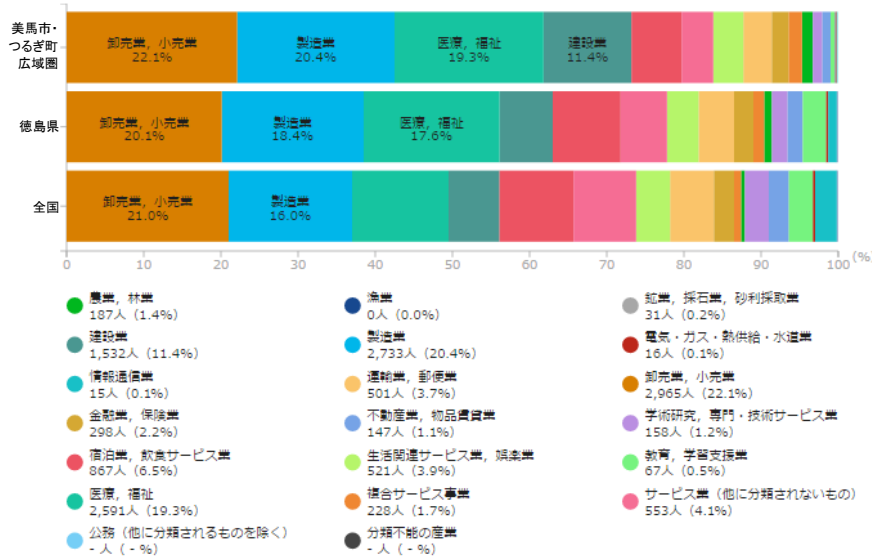


産業大分類別の従業者数をみると、卸売業、小売業が2,965人と最も多く、次いで製造業が2,733人、医療、福祉が2,591人となっています。

上位の産業は、美馬市単独でみた場合と比べると、卸売業、小売業が1位で変わらないものの、製造業の人数が多くなり、2位と上がっています。

出典：RESAS（総務省「経済センサス-基礎調査」再編加工、総務省・経済産業省「経済センサス-活動調査」再編加工）

■ 産業大分類別従業者割合（事業所単位）の比較（2014年）



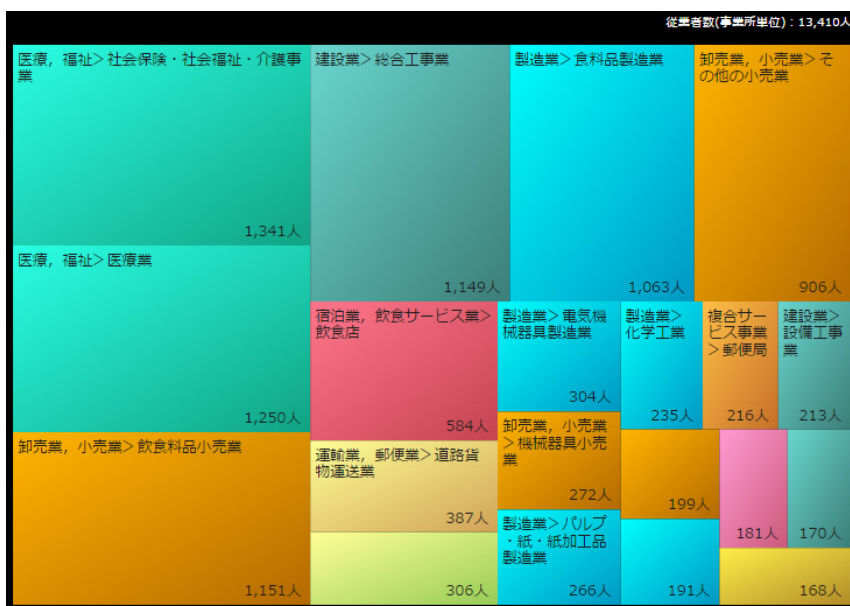
産業大分類別に従業者の割合をみると、卸売業、小売業が22.1%と最も高く、次いで製造業が20.4%、医療、福祉が19.3%、建設業が11.4%となっています。これら4分類で従業者数の約7割を占めており、本圏域の雇用吸収産業となっています。

この中でも、医療、福祉、建設業については、徳島県、全国と比較して高い構成割合となっています。

出典：RESAS（総務省「経済センサス-基礎調査」再編加工、総務省・経済産業省「経済センサス-活動調査」再編加工）

②産業中分類別従業者数の状況

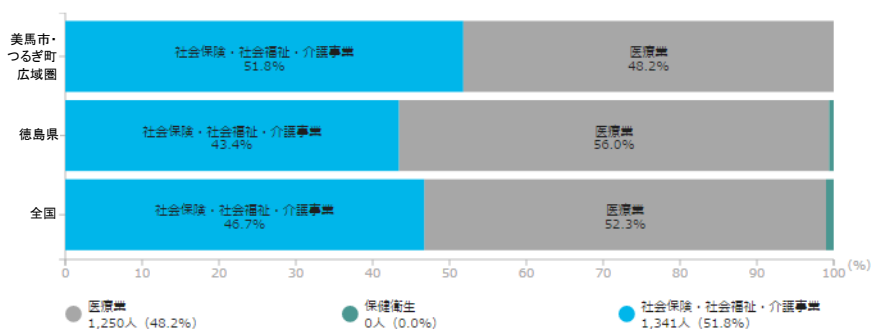
■美馬市・つるぎ町広域圏における産業中分類別従業者数（事業所単位）（2014年）



産業中分類別の従業者数をみると、社会保険・社会福祉・介護事業が1,341人と最も多く、次いで医療業が1,250人、飲食料品小売業が1,151人、総合工事業が1,149人、食品製造業が1,063人となっています。

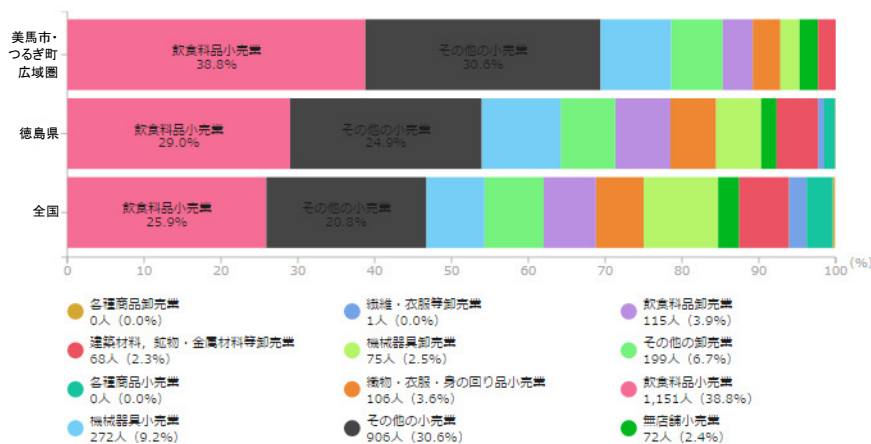
出典：RE S A S（総務省「経済センサス-基礎調査」再編加工、総務省・経済産業省「経済センサス-活動調査」再編加工）

■産業中分類別従業者割合（事業所単位）の比較（2014年）「医療、福祉」



産業中分類別従業者割合の医療、福祉における内訳をみると、社会保険・社会福祉・介護事業が51.8%と半数を超え、徳島県や全国よりも高くなっています。

■産業中分類別従業者割合（事業所単位）の比較（2014年）「卸売業、小売業」



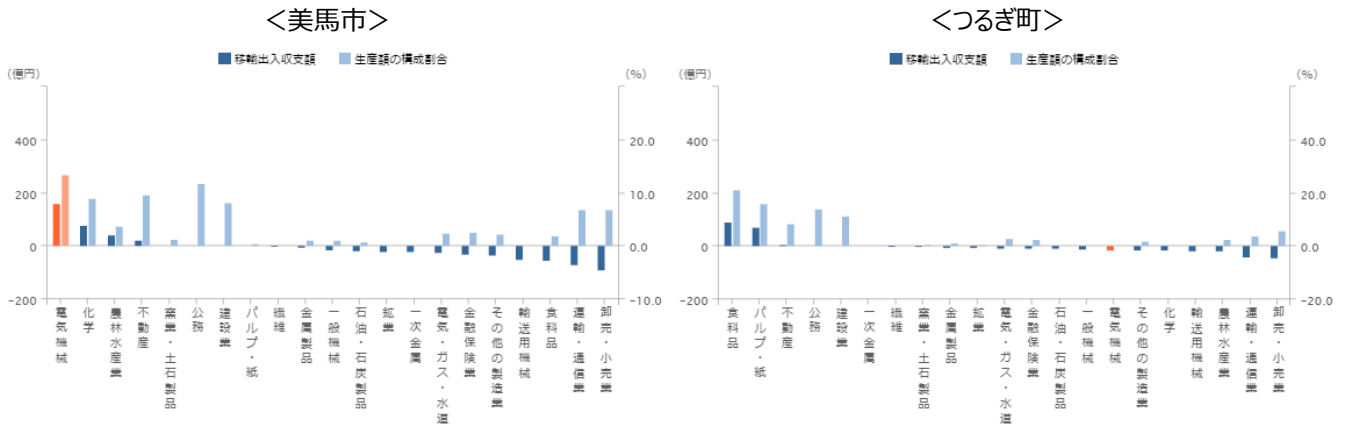
産業中分類別従業者割合の卸売業、小売業における内訳をみると、飲食料品小売業が38.8%、その他の小売業が30.6%と、徳島県、全国よりも高くなっています。

出典：RE S A S（総務省「経済センサス-基礎調査」再編加工、総務省・経済産業省「経済センサス-活動調査」再編加工）

(2) 域外市場産業について ～各市町において域外から資金を得ている産業は何か～

① 移輸出入収支の状況

■ 移輸出入収支の状況・地域別産業別（2010年）

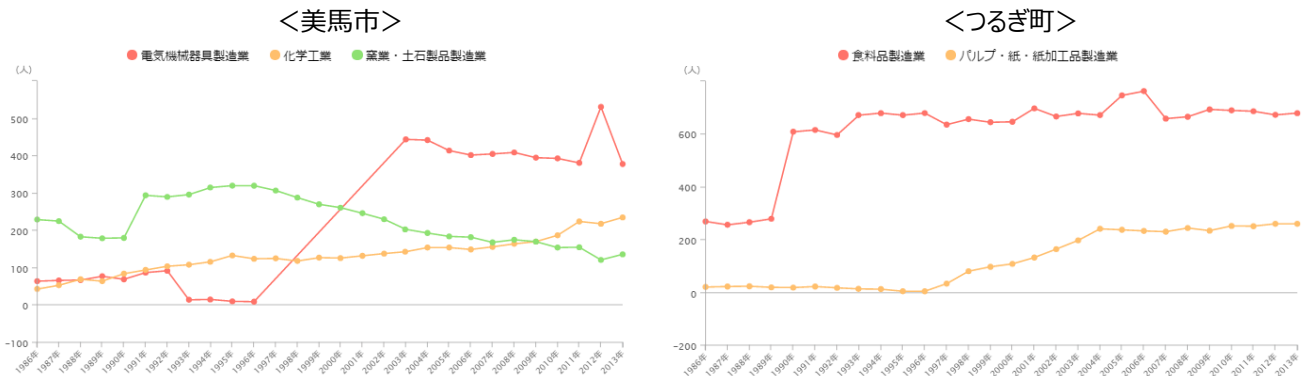


出典：RESAS（環境省「地域産業連関表」、「地域経済計算」(株式会社価値総合研究所（日本政策投資銀行グループ）受託作成）

地域別産業別に、移出入収支の状況を見ると、収支がプラスとなっている産業は、美馬市では電気機械、化学、農林水産業、不動産、窯業・土石製品製造業の順に多く、つるぎ町では食料品、パルプ・紙、不動産の順となっており、両市町とも製造業による移輸出入収支額が多くなっています。

② 域外市場産業の成長状況

■ 産業別常用雇用者数の推移

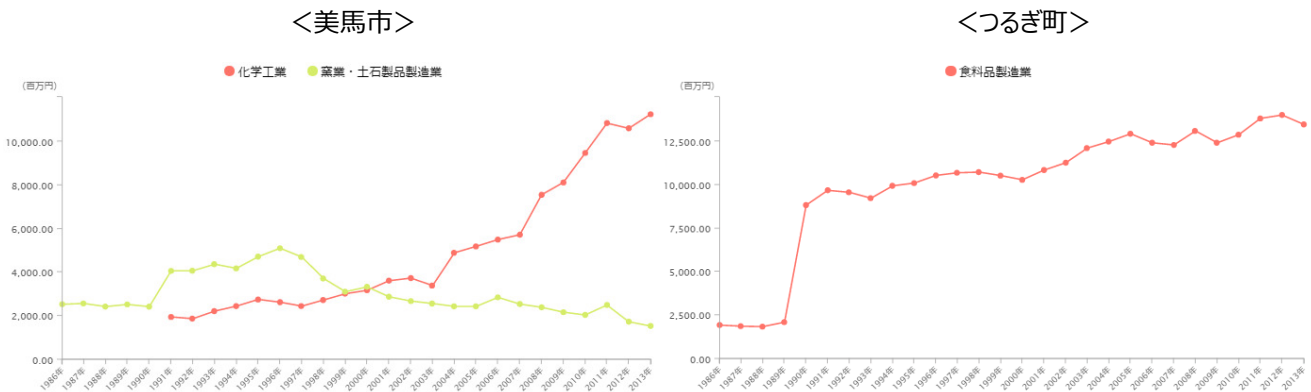


出典：RESAS（経済産業省「工業統計調査」再編加工、総務省・経済産業省「経済センサス-活動調査」再編加工）

美馬市、つるぎ町において移輸出入収支がプラスとなっている製造業の常用雇用者数の推移を見ると、美馬市では、電気機械器具製造業が近年 400 人前後で推移し、化学工業が 200 人規模で増加傾向にあり、窯業・土石製品製造業が減少傾向にあります。

つるぎ町では、食料品製造業が 700 人弱で推移し、パルプ・紙・紙加工品製造業が 200 人台半ばで微増傾向となっています。

■産業別製造品出荷額の推移



出典：RE S A S（経済産業省「工業統計調査」再編加工、総務省・経済産業省「経済センサス-活動調査」再編加工）
電気機械器具製造業、パルプ・紙・紙加工品製造業は非掲載

製造品出荷額の推移をみると、美馬市の化学工業、つるぎ町の食料品製造業は増加傾向にあります。

■産業小分類別従業者数等の状況（2014年）

<美馬市>

産業（小分類）		従業者規模（人）	事業所数（件）
電気機械器具製造業			
1	電気計測器製造業	275	1
2	産業用電気機械器具製造業	29	1
化学工業			
1	化粧品・歯磨・その他の化粧用調整品製造業	235	5
窯業・土石製品製造業			
1	セメント・同製品製造業	151	7
2	建設用粘土製品製造業（陶磁器製を除く）	13	1
3	骨材・石工品等製造業	5	2
4	その他の窯業・土石製品製造業	2	1

<つるぎ町>

産業（小分類）		従業者規模（人）	事業所数（件）
食料品製造業			
1	畜産食料品製造業	363	2
2	その他の食料品製造業	340	40
3	パン・菓子製造業	48	3
4	精穀・製粉業	30	2
パルプ・紙・紙加工品製造業			
1	その他のパルプ・紙・紙加工品製造業	246	1
2	紙製容器製造業	4	1

出典：総務省・経済産業省「経済センサス-基礎調査」

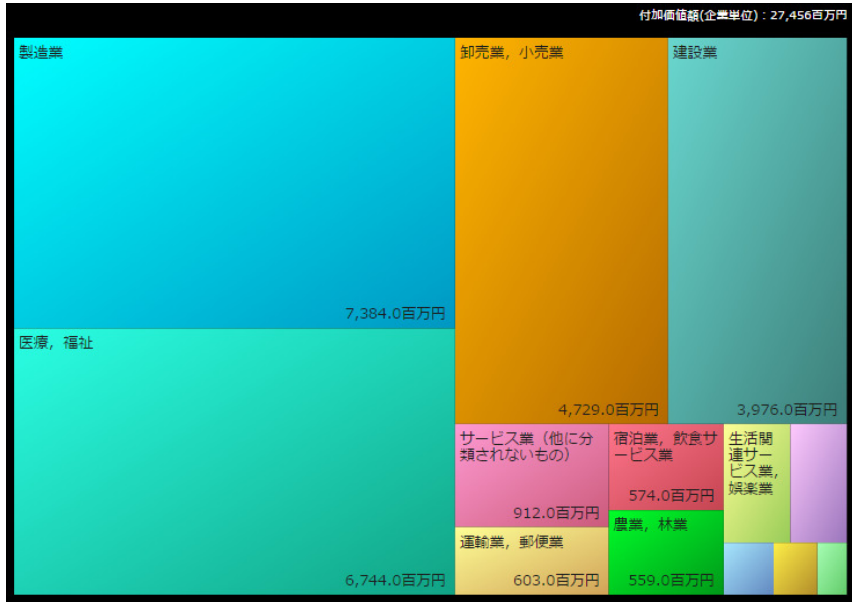
域外市場産業について、産業小分類別別に従業者数等の状況をみると、美馬市では、電気計測器製造業、化粧品・歯磨・その他の化粧用調整品製造業、セメント・同製品製造業が多くなっています。

つるぎ町では、食料品製造業の中でも、畜産食料品製造業、その他の食料品製造業の従業者数がともに多くなっています。パルプ・紙・紙加工品製造業では、その他のパルプ・紙・紙加工品製造業の従業者数が多くなっています。

(3) 所得創出産業について ～所得を生み出している産業は何か～

①産業大分類別付加価値額の状況

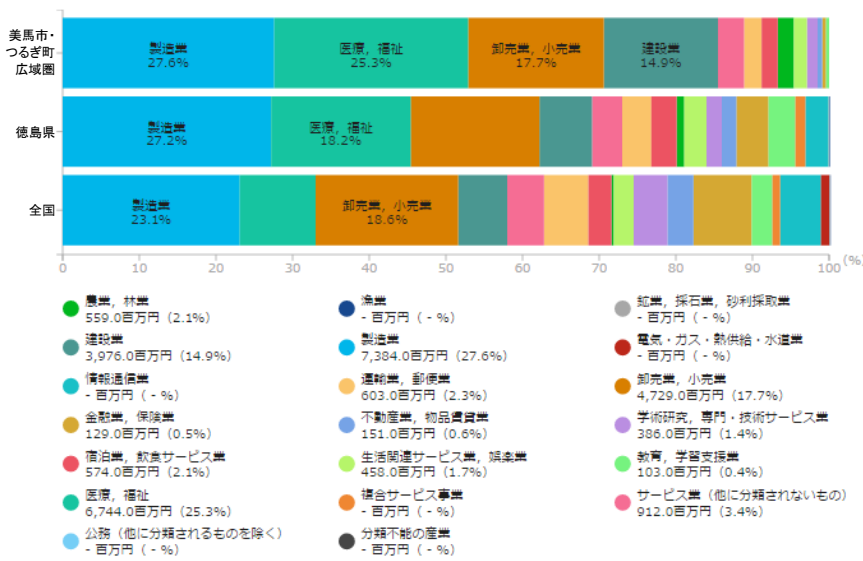
■美馬市・つるぎ町広域圏における産業大分類別付加価値額（企業単位）（2012年）



大分類における付加価値額をみると、製造業が74億円と最も多く、次いで医療、福祉が67億円、卸売業、小売業が47億円、建設業が40億円となっています。

出典：RESAS（総務省・経済産業省「平成24年経済センサス-活動調査」再編加工）

■付加価値額の割合比較（大分類）（2012年）



産業大分類別に付加価値額の割合をみると、製造業が徳島県とほぼ同率で、全国の割合よりも高くなっています。また、医療、福祉、建設業において、徳島県、全国を上回っています。

出典：RESAS（総務省・経済産業省「平成24年経済センサス-活動調査」再編加工）

②産業中分類別付加価値額の状況

■美馬市・つるぎ町広域圏における産業中分類別付加価値額（企業単位）（2012年）

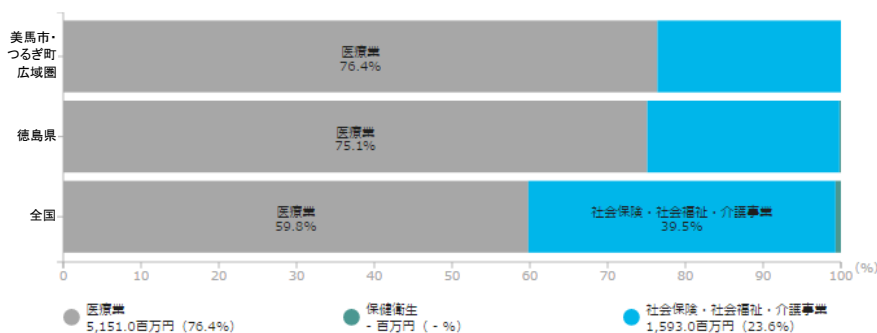


出典：RESAS（総務省・経済産業省「平成24年経済センサス-活動調査」再編加工）

産業中分類における付加価値額をみると、医療業が52億円と最も多く、次いで化学工業が31億円、総合工事業が29億円、食品製造業が27億円となっています。

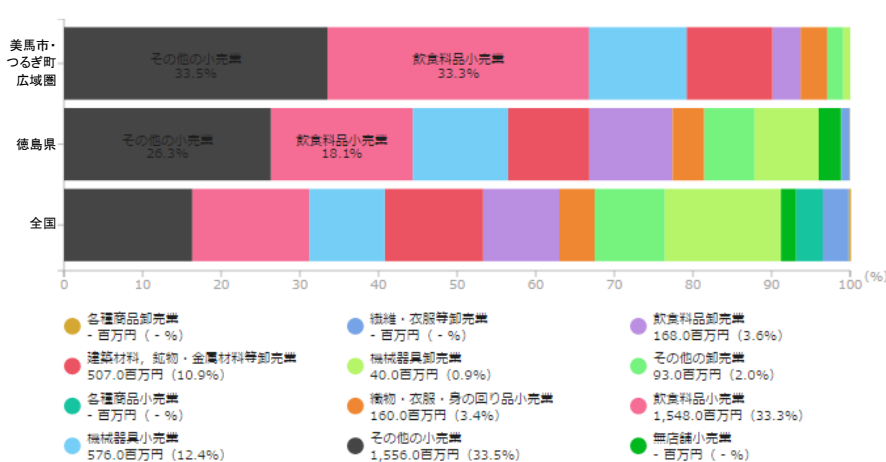
美馬市単独でみたときと比較して、食品製造業が上位にあがっています。

■産業中分類別付加価値額割合（企業単位）の比較（2012年）「医療、福祉」



医療、福祉における付加価値額の割合をみると、医療業が76.4%と、徳島県とともに全国を大きく上回っています。

■産業中分類別付加価値額割合（企業単位）の比較（2012年）「卸売業、小売業」

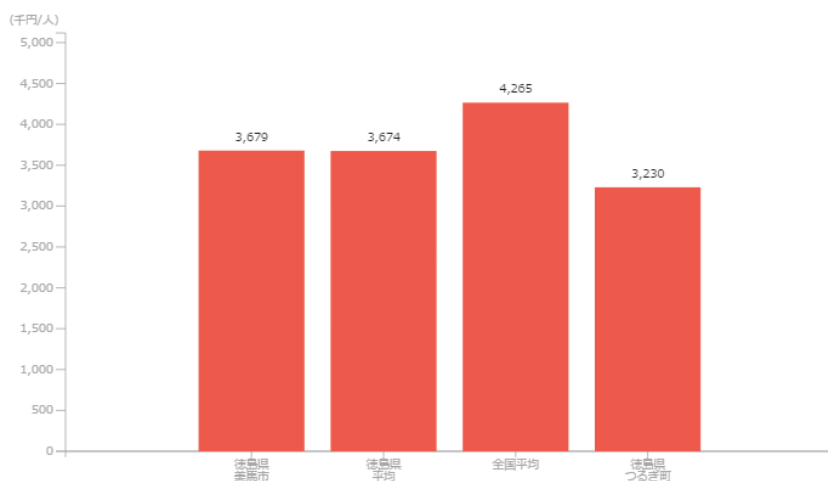


卸売業、小売業における付加価値額の割合をみると、その他の小売業及び飲食料品小売業が徳島県、全国を上回り、住民の日常生活に密着した業種が上位に位置しています。

出典：RESAS（総務省・経済産業省「平成24年経済センサス-活動調査」再編加工）

③労働生産性の状況

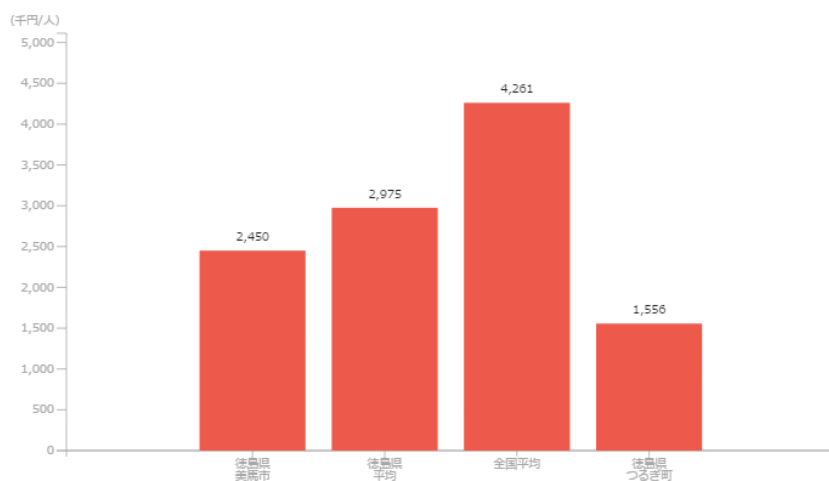
■労働生産性の比較「医療、福祉」(2012年)



医療、福祉の労働生産性は、美馬市では、徳島県をやや上回っていますが、つるぎ町では低くなっています。

全国と比較すると、美馬市、つるぎ町とも下回っています。

■労働生産性の比較「卸売業、小売業」(2012年)



卸売業、小売業の労働生産性は、美馬市、つるぎ町とも県平均を下回っています。

全国と比較すると、県も含めて低くなっています。

出典：RESAS（総務省・経済産業省「平成24年経済センサス-活動調査」再編加工）

(4) 美馬市・つるぎ町広域圏における分析まとめ

1. 雇用吸収産業について

- 産業大分類別の従業者数をみると、「卸売業・小売業」「製造業」「医療、福祉」「建設業」の順に多く、これら4分類で全従業者の約7割を占め、本圏域の雇用吸収産業となっています。
- 産業中分類別に従業者数をみると、「社会保険・社会福祉・介護事業」「医療業」「飲食料品小売業」「総合工事業」「食料品製造業」の順に多くなっています。

2. 域外市場産業について

- 域外からの収入が域外への支出を上回る、域外資金を獲得している産業は、美馬市において「電気機械」「化学」「農林水産業」「窯業・土石製品製造業」、つるぎ町において「食料品」「パルプ・紙」となっています。
- 「電気機械」「化学」「食料品」「パルプ・紙」については、従業者数も一定規模を有するか、あるいは増加傾向にある成長産業であり、これらを本圏域の基盤産業と捉えることができます。

3. 所得創出産業について

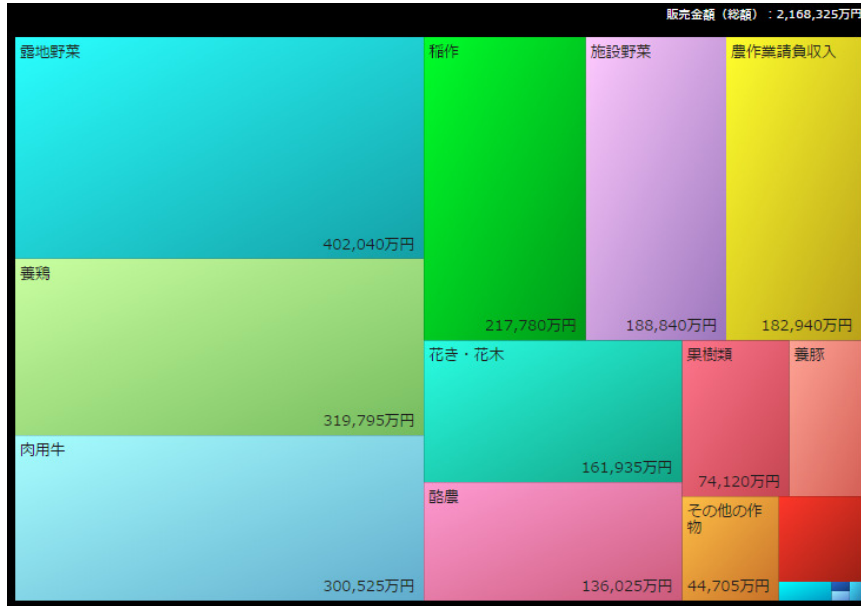
- 付加価値額を大分類別にみると、「製造業」「医療、福祉」「卸売業、小売業」「建設業」の順に多く、美馬市単独でみた時よりも製造業のウエイトが大きくなっています。
- 中分類別にみると、「医療」「化学工業」「総合工事業」「食料品製造業」が上位となっています。
- 「医療、福祉」「卸売業、小売業」の労働生産性をみると、「医療、福祉」は全国平均と比べると低いものの、徳島県の水準に近くなっています。「卸売業、小売業」については、美馬市、つるぎ町とも徳島県、全国を下回っています。

第4章 その他主要産業の特性分析

1. 農業の状況

(1) 農産物販売の状況

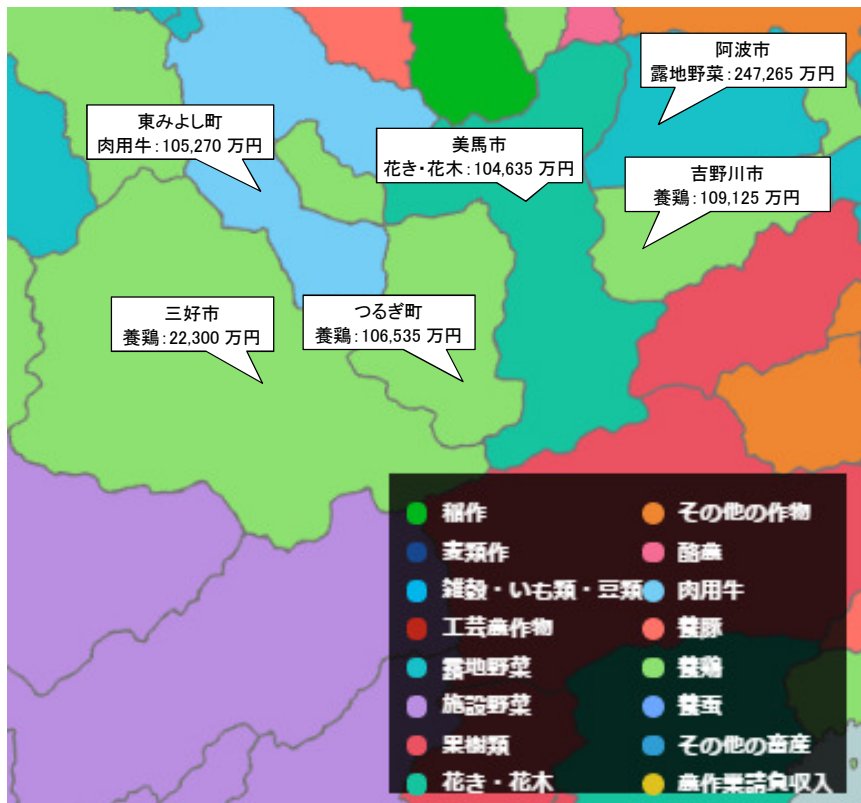
■美馬市近隣広域圏における農業部門別 販売金額（総額）（2010年）



出典：RESAS（農林水産省「農林業センサス」再編加工）

美馬市近隣広域圏で合算した農業の部門別販売額をみると、露地野菜が40億2,040万円と最も多く、次いで養鶏が31億9,795万円、肉用牛が30億525万円となっています。

■自治体別主要作物（2010年）



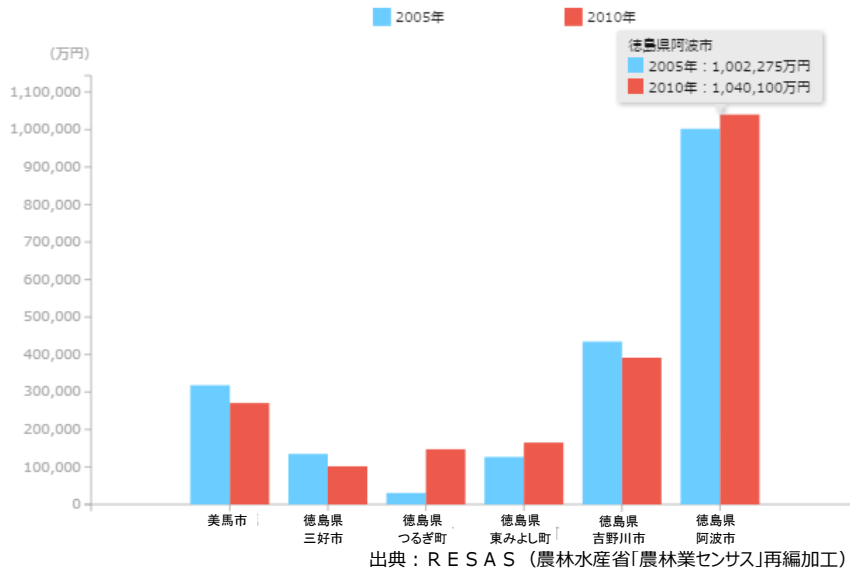
出典：RESAS（農林水産省「農林業センサス」再編加工）

圏域6市町の主要作物をみると、吉野川市、つるぎ町、三好市では養鶏の販売額が最も多く、広域的に盛んであることが分かります。

また、阿波市は露地野菜が25億円と群を抜いて多くなっています。

東みよし町では肉用牛が11億円、美馬市では花き・花木が10億円と広域で見ると特色ある農産物の販売が多くなっています。

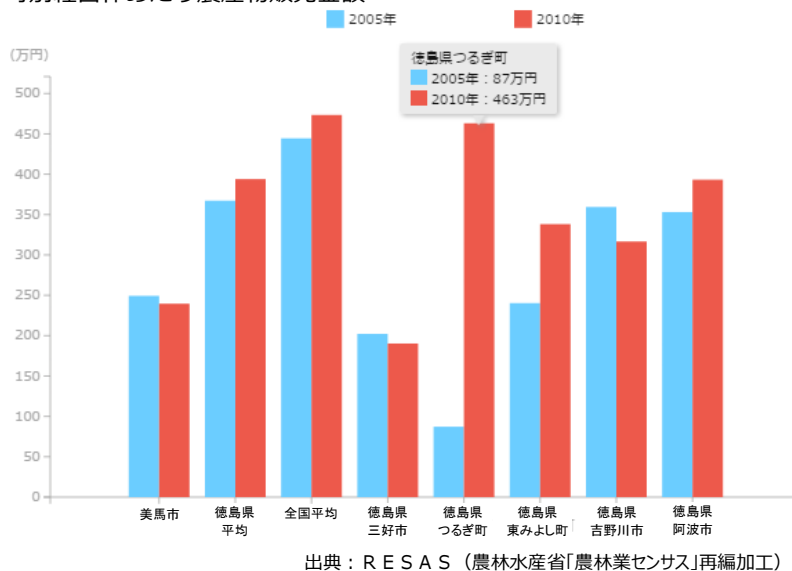
■市町別農産物販売金額総額



農産物販売金額総額をみると、阿波市が100億2,275万円と群を抜いています。

また、2005年から2010年にかけて、阿波市、東みよし町、つるぎ町では販売額が増加していますが、美馬市、三好市、吉野川市では減少しています。

■市町別経営体あたり農産物販売金額

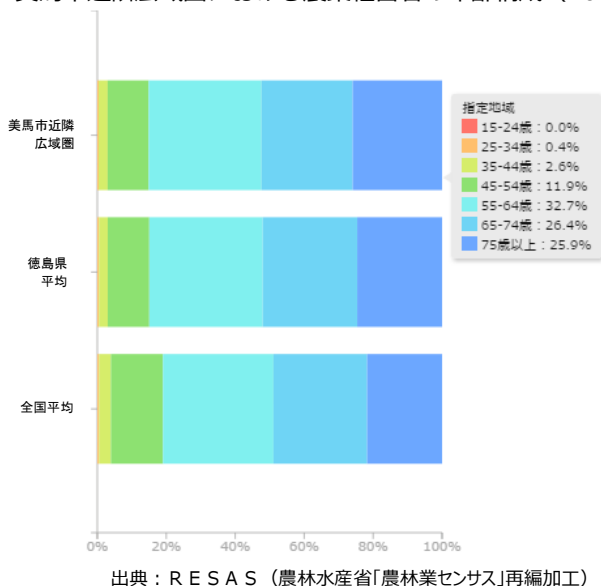


一経営体あたりの農産物販売金額をみると、2005年から2010年にかけて、つるぎ町の金額が大きく伸びており、463万円と国に並ぶ水準となっています。

また、阿波市が393万円と徳島県とほぼ並んでいます。その他の市町は、徳島県、全国の水準よりも低くなっています。

(2) 農業者の状況

■美馬市近隣広域圏における農業経営者の年齢構成 (2010年)

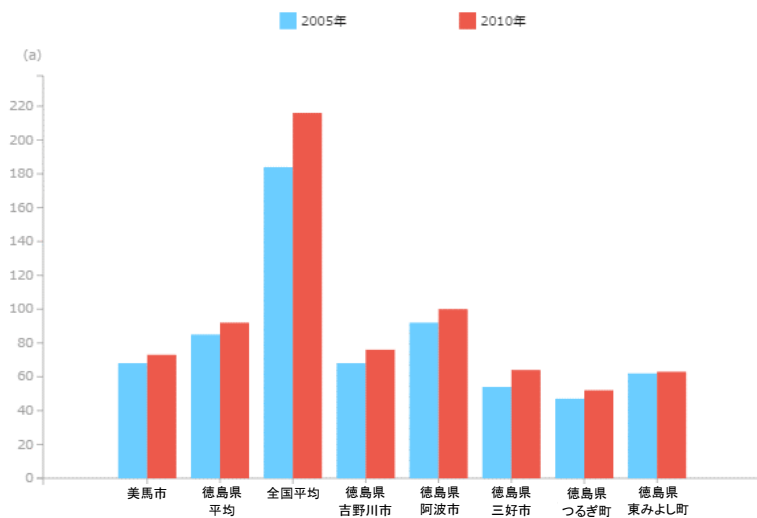


農業経営者の年齢構成を、6市町合算してみると、55-64歳が32.7%と最も高く、次いで65-74歳が26.4%、75歳以上が25.9%であり、ほぼ徳島県の割合と同様となっています。

65歳以上の高齢層は、全国と比較すると高くなっています。

(3) 農地の状況

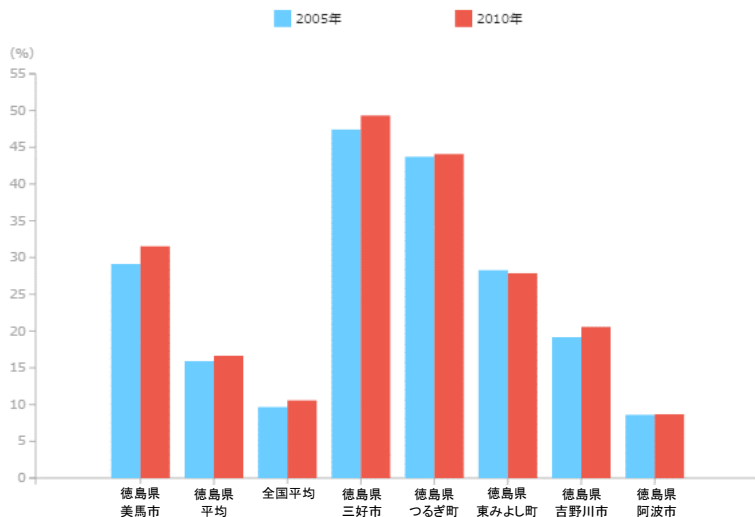
■市町別経営体あたり耕地面積



出典：R E S A S（農林水産省「農林業センサス」再編加工）

一経営体あたりの耕地面積をみると、徳島県全体が全国と比較して狭小であり、6市町の中では、阿波市が100aで県よりもやや広がっています。

■市町別耕作放棄地率

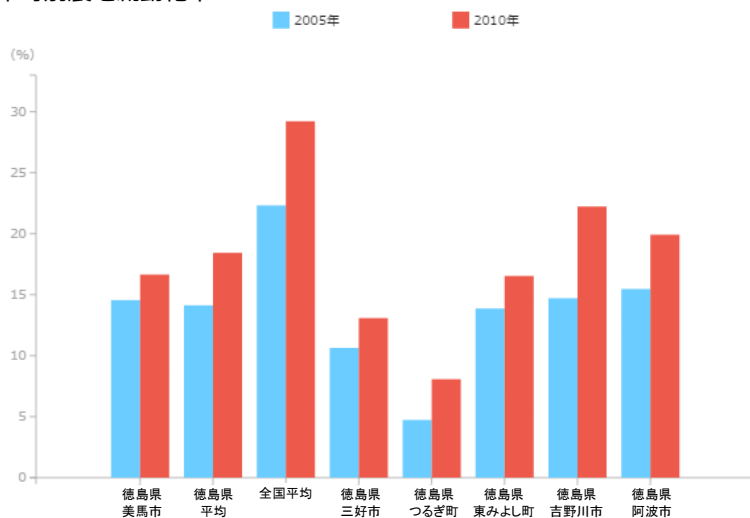


出典：R E S A S（農林水産省「農林業センサス」再編加工）

耕作放棄地率をみると、県西部地域において、特に高い傾向があり、美馬市、三好市、つるぎ町、東みよし町のいずれの地域も徳島県を上回り、約3割から5割が放棄地となっています。

6市町の中では、阿波市のみ、徳島県、全国の平均を下回っています。

■市町別農地流動化率



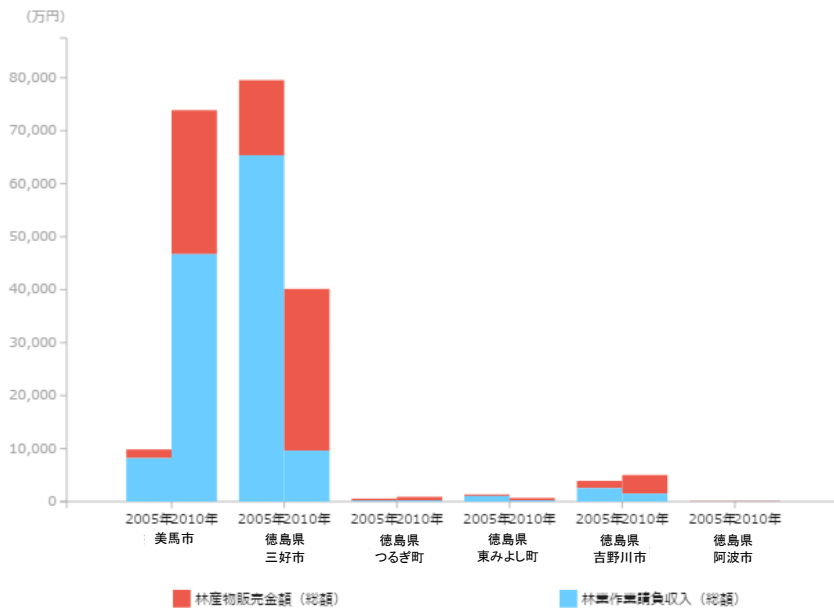
出典：R E S A S（農林水産省「農林業センサス」再編加工）

農地流動化率をみると、6市町とも全国平均を下回るものの、吉野川市及び阿波市においては、徳島県よりも高くなっています。

2. 林業の状況

(1) 林業収入の状況

■市町別林業総収入（総額）



出典：RESAS（農林水産省「農林業センサス」再編加工）

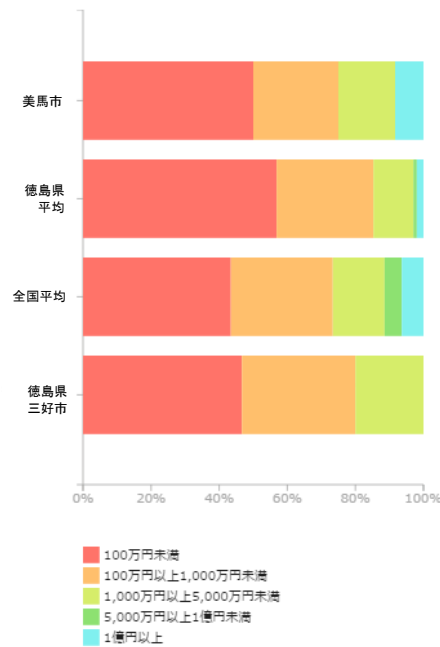
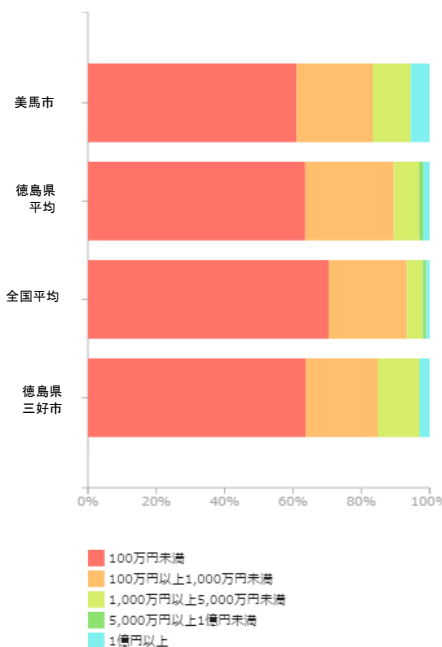
市町別に林業総収入の状況を見ると、美馬市、三好市において一定規模の収入がありますが、その他の市町ではわずかとなっています。

美馬市では、総額7億円規模で、うち林業作業請負収入が4億6,700万円となっています。三好市では、総額4億円規模で、うち林産物販売金額が3億525万円となっています。

■林産物販売金額帯、林業作業請負収入金額帯別の経営体の割合（2010年）（美馬市、三好市）

<林産物販売金額帯別の経営体割合>

<林業作業請負収入金額帯別の経営体割合>



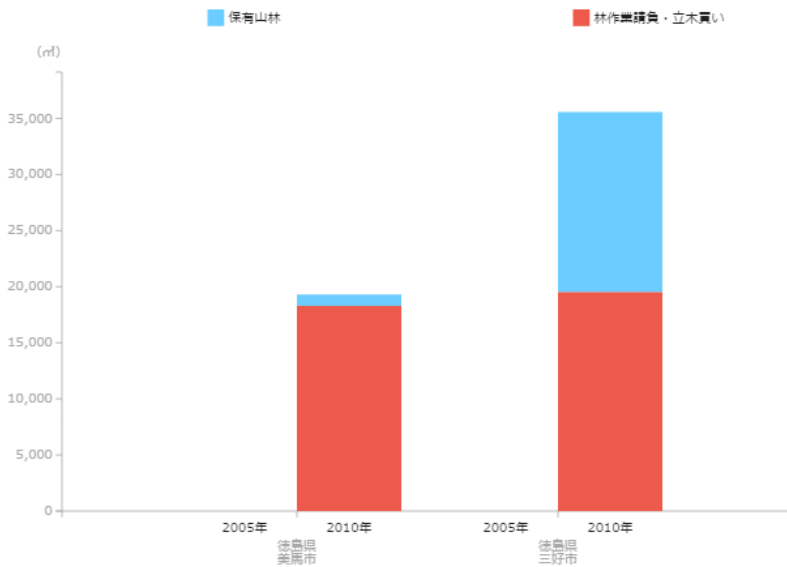
出典：RESAS（農林水産省「農林業センサス」再編加工）

美馬市、三好市における林産物販売金額帯別、林業作業請負収入金額帯別の経営体割合をみると、林産物販売金額帯別では、美馬市、三好市ともに、1,000万円以上5,000万円未満及び1億円以上の経営体割合が徳島県、全国よりも高くなっています。

林業作業請負収入金額帯別では、美馬市、三好市ともに1,000万円以上5,000万円未満が徳島県、全国よりも多く、また、美馬市では、1億円以上の割合も高くなっています。

(2) 素材生産量の状況

■素材生産量（美馬市、三好市）



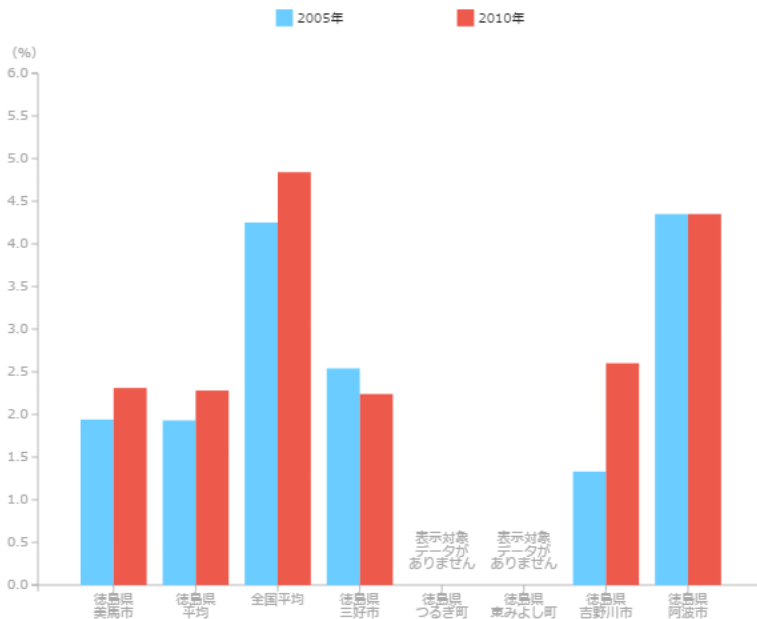
出典：RE S A S（農林水産省「農林業センサス」再編加工）

美馬市、三好市における素材生産量の状況を見ると、林作業請負・流木買いでは、美馬市、三好市とも 20,000 m³ 弱でほぼ同様の生産量となっています。

保有山林については、美馬市の約 1,000 m³ に対し、三好市では約 16,000 m³ と大きく上回っています。

(3) 林業法人化の状況

■市町別林業経営体の法人化率



出典：RE S A S（農林水産省「農林業センサス」再編加工）

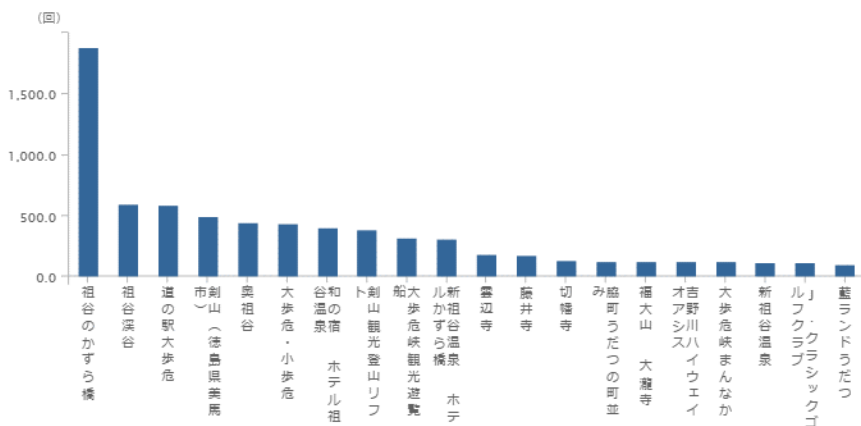
林業の法人化の状況を見ると、徳島県平均を含め、多くの市町で 2% 台であり、全国平均である 4.84% を下回っています。

阿波市のみ、4.35% と国の水準に近い割合となっています。

3. 観光の状況

(1) 観光目的の状況

■美馬市近隣広域圏の自動車による目的地検索状況（休日）（2015年）

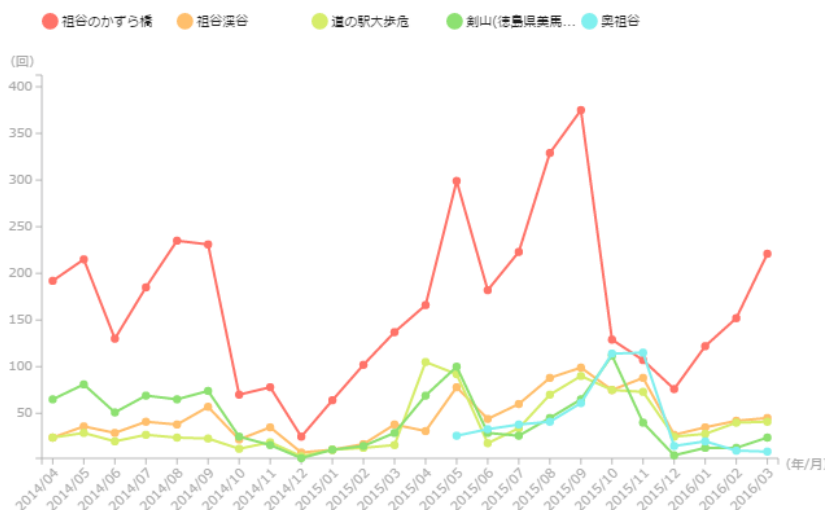


出典：RE S A S（株式会社ナビタイムジャパン「経路検索条件データ」）

6市町の自動車による目的地検索の状況を見ると、「祖谷のかずら橋」をはじめ、祖谷や大歩危・小歩危に関する検索が多くなっています。

その他では、剣山や四国霊場札所に関する地点がみられますが、圏域全体としての観光目的地としては限定的となっています。

■美馬市近隣広域圏の自動車による目的地検索の推移（休日）（2015年）

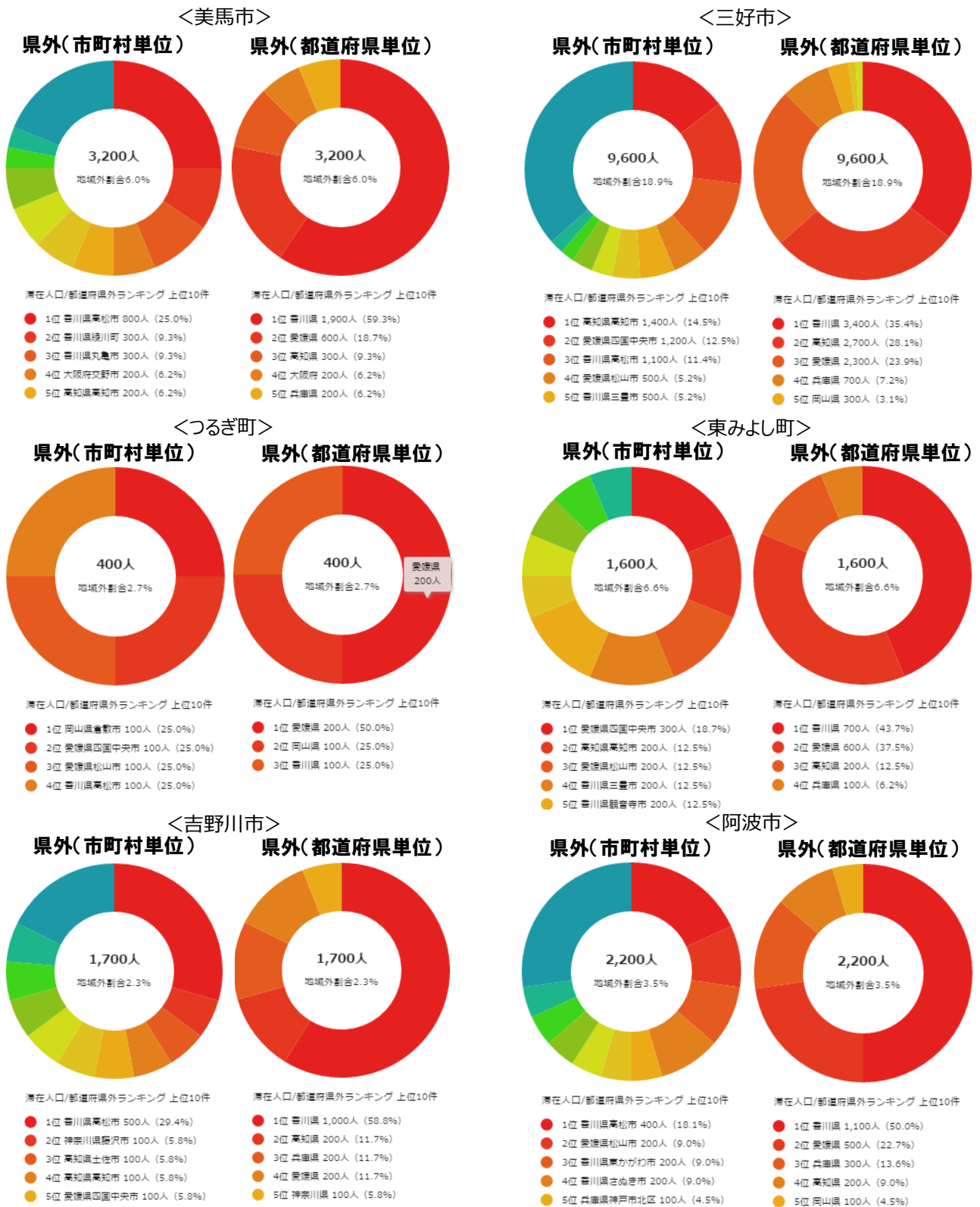


出典：RE S A S（株式会社ナビタイムジャパン「経路検索条件データ」）

2014年4月から2016年3月における主要な目的地の推移をみると、「祖谷のかずら橋」は、5月と9月がピークとなっており、2014年から2015年にかけて、このピーク時の検索数が大幅に増加しているため、近年注目が集まっていることがわかります。

(2) 滞在者の状況

■市町別滞在人口（休日）（2015年）



出典：RE S A S（株式会社Agoop「流動人口データ」）

市町別に休日における県外からの滞在者の状況を見ると、三好市が9,600人、地域外割合が18.9%と群を抜いています。他の市町の地域外割合は2%台から6%台であり、県外からの流入は少ない状況となっています。

第5章 広域経済分析のまとめと課題

本調査・分析では、RESAS 及び各種統計データを活用して、本市及び近隣市町（三好市、つるぎ町、東みよし町、吉野川市、阿波市）との経済的な結びつき等を分析するとともに、分析成果を踏まえた広域的な連携施策を検討しました。

分析結果の概要は、以下の通りです。

1. 広域圏を取り巻く現状

(1) 人口の動向

総人口は、2010 年時点でいずれの市町も減少基調に入っています。老年人口は、三好市、つるぎ町において既に減少しており、人口減少が一層加速化する段階を迎えつつあります。

転出では、美馬市、吉野川市、阿波市において県東部地域へ、三好市、つるぎ町、東みよし町では隣接市町への移動が多くなっています。

(2) 就業者の状況

産業3分類別に就業者の状況を見ると、特に阿波市において、1次産業割合が高く、3次産業割合が低くなっています。

通勤における人の動きでは、雇用を吸収し、中心性を成す市町はみられませんが、「美馬市及びつるぎ町」、「三好市及び東みよし町」の結びつきが強くなっています。吉野川市、阿波市は、徳島市へ流出しています。

2. 広域圏における経済分析

(1) 美馬市近隣広域圏（美馬市、三好市、つるぎ町、東みよし町、吉野川市、阿波市）

域外市場産業（基盤産業）を、農林業及び製造業（電気機械、パルプ・紙、その他の製造業、化学）として資金を稼ぎ、域内を市場とする卸売業・小売業、医療、福祉で所得を生み出すとともに、雇用を支えています。

(2) 美馬市・つるぎ町広域圏（美馬市、つるぎ町）

域外市場産業（基盤産業）を、農林業及び製造業（電気機械、食料品、化学、パルプ・紙）として資金を稼ぎ、域内を市場とする卸売業・小売業、医療、福祉で所得を生み出すとともに、雇用を支えています。

3. その他主要産業の特性分析

(1) 農業

販売額は、「露地野菜」が最も多く、次いで「養鶏」、「肉用牛」の順となっています。各市町では、「露地野菜」は阿波市、「養鶏」は吉野川市、つるぎ町、三好市、「肉用牛」は東みよし町が、それぞれ最も多くなっています。農産物販売金額や経営体あたり耕地面積は、阿波市が最も多くなっています。耕作放棄地率は、美馬市、三好市、つるぎ町、東みよし町が、県を大きく上回っています。

(2) 観光

目的地検索では、祖谷や大歩危・小歩危に関する検索が特に多くなっています。その他、剣山や四国霊場札所に関わるものがみられますが、観光目的地としては圏域全体では限定的となっています。休日における県外者の滞在率は、三好市が18.9%と抜きん出ています。

4. まとめと課題

域外市場産業としては、各市町とも農林業が上位にあがっています。製造業については、それぞれの市町を基点に特化されたものが上位に位置すると想定され、広域でクラスター化された産業としては見受けられません。

所得創出・雇用吸収産業としては、人口構造や立地環境から、医療、福祉や卸売業・小売業が圏域全体で多くなっています。また、製造業の付加価値額割合では、食料品製造業が徳島県、全国と比べて高く、農業（畜産）との関わりが伺えます。

これらの状況をふまえると、農林業は、各市町で域外市場産業の上位となっているため、製造業等と連携し、付加価値の高い移出製品の創出が求められます。また、土産品の製造など、観光との連携も必要となります。さらに、製造業は、圏域の域外市場産業と地場企業との取引拡大や、地場企業間連携による事業機会の拡大を図る必要があります。需要が伸びる医療、福祉については、関連産業の集積や、川上産業である関連サービス業との連携により、域内の循環を高めることが求められます。

第6章 広域連携施策の検討

施策案1 圏域資源を活かした健康・美容バレーの形成

<背景>

美馬市近隣広域圏は、徳島県の中でも老年人口比率が高く、先進的な超高齢社会となる中で、人々が生涯を通じて健康で、いきいきと暮らせる環境づくりが必要となっています。こうした中、医療に関わる従事者数、医療業の付加価値額は、他の産業と比較して特に多くなっています。その他産業特性としては、2010年国勢調査における第1次産業就業者割合は11.1%と、国の4.8%、県の8.8%を上回っています。また、農林業の移輸出収支は、つるぎ町を除く5市町でプラスとなっており、花き、鶏肉・鶏卵、しいたけ、果樹など、特色ある農林産物が産出されています。製造業においては、食料品製造業、化学工業（化粧品産業）の付加価値額が高く、圏域の農林産物を活用した加工品の製造がみられるなど、豊かな自然環境と食を活かした健康美容関連商品・サービスの広がりへの可能性が高まっているといえます。

<施策の方向性（案）>

地域資源の活用や環境を基盤に集積が図られ、付加価値を創出する食料品製造業や化学工業等と、これらと親和性の高い「健康・美容」「医療」分野との連携を図り、健康食品・美容品の開発など、成長産業としての育成を進めます。また、徳島県が進める健康・医療クラスターとの連携を図り、食品・素材研究や製品開発において、域外からの情報・人材・投資等を呼び込み、共同研究開発、企業誘致等を進めることにより、持続的なイノベーションを創出します。さらには、観光分野と連携し、生活習慣改善、免疫機能改善等を目的とした滞在型の森林セラピーを実施するなど、圏域一体を健康・美容バレーとして、産業振興と観光集客を図ります。

施策案2 美馬・つるぎ圏域におけるフードクラスターの構築

<背景>

美馬市、つるぎ町間の通勤における人の動きをみると、2010年において、美馬市からつるぎ町へは948人（美馬市常住就業者の7.1%）、つるぎ町から美馬市へは702人（つるぎ町常住就業者の17.5%）と、2市町間での結び付きが強くなっています。2市町間の産業のうち、雇用を吸収し、所得を生むとともに、域外からの資金を得ている産業は、つるぎ町に比較的多く所在する食料品製造業（素麺製造、鶏肉加工）が有力であり、こうした農業や畜産業と関連する川上から川下までの産業を連携させることにより、相乗効果が図られるとともに、雇用者所得の拡大につながることを期待されます。

<施策の方向性（案）>

川上である農業、畜産業を起点に、川中にある食料品製造業、そして川下にある流通や観光、輸出までの流れをつくります。半田素麺や阿波尾鶏は、個別ブランドとしてその認知は広がりつつあるものの、圏域の地域ブランドとしての確立を図るためには、地域での消費や、レストランでのメニュー化等、食する機会の拡充、新たな加工品の開発等が求められ、農商工連携による西阿波の食の拠点化をめざしていきます。

美馬市RESAS活用地域経済調査分析
— 広域編 —
報告書

平成 29 年 3 月
美馬市 地方創生推進課
